

隠ぺいされた歴史に今こそ光を！

「朝鮮人従軍慰安婦」



— 韓国女性問題資料集 8 —

目 次

はじめに	2
再版にあたって	3
詩 「天の川」	4
従軍慰安婦問題をめぐる韓日における動き（日誌）	6
講演 「従軍慰安婦問題を考える」 川田文子	9
講演 「再び過ちを繰り返さないために」 尹貞玉	16
翻 訳	
■ 特別寄稿 「隠された歴史、20万従軍慰安婦真相究明・ いまこそ戦争責任を明らかに！」 梨花女子大学校女性学科 女性新聞(1990年5月25日)	25
■ 紀行文 「日本『挺身隊』追慕祭参加記」 ハンギョレ新聞(1990年11月23日)	30
■ 詩 「あなた、朝鮮の十字架よ！」	32
■ ルポ 「従軍慰安婦の足跡を追って」 尹貞玉 ハンギョレ新聞(1990年1月)	34
資 料	
■ 韓国政府に送る公開書簡(原文及び日本語訳)	56
■ 日本政府に送る公開書簡(原文及び日本語訳)	60
■ 新聞記事より	64
■ 参議院国会会議録	69
■ ビラ 「この国の娘たちは、なぜ、日本人に体を売らねばならないか!!」 民主化運動青年連合女性部 (1984年8月)	76
■ 「松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会」結成	80
歌 「知ってるの、わが娘たちよ」	84
参考図書	86

(表紙写真説明)

日本は1944年8月23日、女子挺身勤労令を公布、実施。
未婚の12～40才未満の女性たちを狩り出し、日本軍の現地慰安
婦として前線に連行した。－女性新聞(1990年5月25日)－

はじめに

日本植民地支配と日本の侵略戦争の犠牲となった「朝鮮人従軍慰安婦」はその数20万人ともいわれており、数少ない資料や記録からでさえ、日本敗戦後も生きて故郷に帰れない彼女たちの筆舌につくし難い惨状は容易にうかがい知ることができる。

「従軍慰安婦(女子挺身隊)」問題が、多くの女性たちの手によって今まさに歴史の暗闇から這い上がろうとしている。

「従軍慰安婦」は歴史の一コマとしてこれまで私たちの傍らに存在していたことは事実である。しかしながら、「身も心も踏みにじられたかわいそうな女性たち、そしてそれを強要した憎き日帝」という構図から脱し切れないゆえに、目をそらしていたことは否めない。「性」を主体としてとらえる意識変革なくしてはこの問題を語り、明らかにしてゆくことは出来ないからだ。

この意味において、女性には貞操を重んじる風潮を押しつけ、一方では官憲による捜査過程で性拷問が絶えないというこの矛盾は、韓国国内の民主勢力や女性団体の「性」に対する考え方を変えさせてきた。と同時に、私たち в日同胞女性をも変えさせてきたといえる。

「従軍慰安婦」問題は、植民地支配に対する日本の戦争責任が明確に示され、それに対する補償がいまだ成されていないことと根を同じくし、現在再び姿を変えて女性の前に立ちはだかっている。キーセン観光と称して日本人が大挙押しかける光景は韓国女性のみならず、私たち в日同胞女性にとっても実に寒々としたものを思わせる。「従軍慰安婦」問題は、日本人「従軍慰安婦」をも含んだ女性に対する国家的犯罪行為であったことを考える時、同じ女性として私たちは、「従軍慰安婦」の歴史的背景及び真相を明らかにし、その解決のために努力することを通してはじめて、私たち自身の「性」及び「生」を再びこの手に獲得できるのではないだろうか。

私たちは、このパンフレットの発刊を、「朝鮮人従軍慰安婦」問題解決のための作業の礎としたいと考えている。多くの人たちに読んでもらえることを望んでいる。

1991年5月

在日韓国民主女性会

再版にあたって

5月31日から6月2日にかけて、東京・神戸・大阪で「アジアの平和と女性の役割」と題するシンポジウムが、韓国と朝鮮民主主義人民共和国からそれぞれゲストを迎えて開催された。韓半島南北の女性たちと在日同胞女性たちが分断46年ぶりに一堂に会したことはもちろんのこと、ここで「朝鮮人従軍慰安婦」問題が取り上げられたことは、実に歴史的出来事として長く私たちのところに記憶されることと思う。この運動が多く的女性たちの手によって社会的な広がりをもつようになったと感じるのは私たちだけではないと思う。

このパンフレットに対して多くのみなさんから適切なご指摘や助言を受け、版を重ねることができたことを大変うれしく思う。発刊後まだ日が浅いにもかかわらず、このパンフレットをたくさんの人たちが読んで下さっているということが、「従軍慰安婦」問題の解決に向けて力となることを信じて疑わない。

1991年7月

ぶるぶると血の涙を流しながらチヨゴリの衽(おくみ)を
咬んだであろう姉よ

動乱が過ぎ去ったいまも戻らぬ姉よ

濃紺のチマの中の陽炎(かげろう)を取り出し

無数の腰を抱いて身振いしたであろう姉よ

目を閉じ、舌をぐつと咬み

吐き出すあの呻き声

ニッポンジン、チヨウセンジン、テンノウヘイカ オナジネ

北の空におののく天の川から響き渡る



注1

チヨゴリ(韓服の上着の結び紐)

注2

三つ編の束に掛ける赤紫のひも(髪飾り)

注3

韓国固有の少女の固有な髪形

注4

韓国では天の川が空に白く、細長くみえるその形がチヨゴリを着た女性に似ているといわれている

予備挺身隊 1930年全羅南道のある部落で少女会が組織され、記念撮影したもの。日帝は全国各部落で少女会を作り幼い少女たちにまで人力動員のための徹底した監視体制をひいた。

《挺身隊！その凄絶な記憶をどうしてわすれようか？》

天の川

ハ・ジョンオ

挺身隊にいった姉さんのほどこいたコルムが

いまでも夜になるとひらひらとなびいてみえる

花の^{（花）}テンギつかまれ、連れられていったあぜ道には

春が来て、レンゲ草が一面を覆っているというのに

コムシンをひきずり連れられたまま、戻らない姉よ

一人、田の草をむしり足を引きずりつつ帰ってくる

大東亜戦争で徴兵にとられた兄を捜そうと

供出にひっぱられた父さんは鞭打たれて死に

松の葉で飢えをしのいでいた母は黄色くむくんで死んだ

この地の悲しみを抱いて行った姉よ



従軍慰安婦（挺身隊）問題をめぐる韓日での動き

日帝時代、20万名もの若い朝鮮人女性たちは、「女子挺身隊」という名のもとにだまされて、あるいは強制連行され、「皇軍」の性的慰安を強いられた。しかし、日本の植民地支配から解放されて45年の月日がたつまで真相は隠ぺいされ、「挺身隊」という言葉すら忘れられてきた。

挺身隊問題が浮上し始めた契機は、日本の朝鮮民族に対する侵略と収奪の清算のないまま、盧泰愚大統領、海部首相の訪日、訪韓が強行されたことからだった。

そして、昨年6月、日本参議院予算委員会での社会党・本岡議員の質問に「従軍慰安婦は国家総動員法に基づいた徴用業務とは関係ないため、実態調査はできない」という日本政府の答弁に韓国的女性界が反発、真相究明要求闘争が広がり始めた。

また、長年にわたってこの問題について地道な調査活動をしてきた元梨花女子大の尹貞玉教授がハンギョレ新聞に連載したルポは究明運動の起爆剤となった。

闇に葬られた挺身隊問題に光をあてようとする韓日での動きを日誌に整理する。

— 日 誌 —

- 89/1/7 韓国女性団体連合（女連）、天皇死去の際、声明
「ヒロヒトは挺身隊を始め、わが国の女性たちを無残に踏み
にじった」とし、弔問使節派遣反対
- 90/1月 尹貞玉氏挺身隊取材記、
4回にわたって「ハンギョレ新聞」に掲載
- 5/18 女連、韓国教会女性連合会、ソウル地域女子大生協議会等が
記者会見で「盧泰愚大統領の訪日および挺身隊に対する女性
界の立場」を声明発表
挺身隊問題について日本政府の真相究明、謝罪、補償要求
- 6/6 日本118回参議院予算委員会で、本岡社会党議員、従軍慰
安婦の調査を政府に要請
日本政府「従軍慰安婦は軍、国家とは関係なく、民間の業者
が勝手に連れてきたもの」と答弁

- 7 / 挺身隊研究会結成（尹貞玉氏を中心に）
- 7 / 14 「もう一つの文化」挺身隊解怨クッ
- ／ 31 釜山地域社会女性連合、集会
「日帝に踏みにじられた韓国の娘－挺身隊の惨状とその後」
— 隠ぺいされた歴史的事実の公開と補償要求
- 8 / K B S テレビ 8・15 特集、元従軍慰安婦の証言など「沈黙
の恨」放映
- 10 / 17 女連など韓国女性団体（36 団体）— 記者会見、韓日両政
府に公開書簡
— 6 月の政府答弁は歴史的事実に反していると指摘、真相
究明要求
- 10 / 25~27 日本キリスト教平和センター主催の沖縄・渡嘉敷島での慰霊
祭に韓国教会女性連合会代表など7 名参加
- 10 / 29 韓国教会女性連合代表、日本外務省に公開書簡手渡す
- 11 / 16 韓国で「挺身隊問題対策協議会」（37 女性団体参加）結成
（代表・尹貞玉氏）
- 11 / 30 「売買春問題ととりくむ会」主催の『戦争と人権セミナー』
で尹貞玉氏、挺身隊について報告
- 12 / 1 「従軍慰安婦問題を考える会」発足（代表・川田文子氏など）
- 12 / 18 清水澄子参議院議員、6・6 国会での本岡議員の質問に対す
る政府の答弁を確認。日本政府「従軍慰安婦の経緯など全く
状況がつかめない」と答弁
- 12 / 20 挺身隊問題対策協議会、日本政府に公開書簡に対する返答督
促
- 9 1 / 1 / 8 女連など韓国の女性団体声明発表、バコダ公園で挺身隊につ
いての謝罪、補償なしに推進している海部首相の訪韓反対デ
モ行進
- 1 / 19 「従軍慰安婦問題を考える会」第1 回シンポジウム、
真相究明、日本政府の責任追求など方針に決める
- 3 / 15 「在韓被爆者問題市民会議」例会『朝鮮人従軍慰安婦をめぐ
って』鈴木裕子氏講演。
— 従軍慰安婦は日本の軍国主義の政策によるもので朝鮮民
族抹殺のためだと主張
- 3 / 17 在日韓国民民主女性会大阪本部定例会
「朝鮮女子挺身隊問題を考える」学習

- 3/20 「尹貞玉さんを囲む会」（日本キリスト教協議会など4団体主催）
 ——「従軍慰安婦問題を取り上げる究極的目的は平和を構築するため」
- 3/23 「従軍慰安婦問題を考える会」第1回セミナー
- 3/24 在日韓国民民主女性会東京定例会
 講演「従軍慰安婦問題を考える」作家・川田文子氏
 ——元従軍慰安婦のベ・ボンギさんの一生を通して見た朝鮮人従軍慰安婦の本質
- 4/1 日本参議院予算委員会で本岡議員、3/31日、GHQの資料から発見された挺身隊の名簿をもとに実態調査を要求。海部首相「可能な範囲内で調査し、真実を明らかにする」と答弁
- 5/19 在日韓国民民主女性会東海本部定例会
 「従軍慰安婦問題を考える」学習会
- 5/28 韓国の挺身隊問題対策協議会、
 挺身隊問題についての講演会



1991年1月8日

海部総理の訪韓時にソウル・バゴダ公園前で挺身隊に対する補償と慰霊碑建立などを要求する「挺身隊問題対策協議会」会員たち。前に立っているのが尹貞玉会長。

— 従軍慰安婦問題を考える —

「赤瓦の家」を訪ねて

川田文子 (作家)

1991年3月24日 在日韓国民民主女性会定例会での講演



日本植民地時代の隠された歴史、従軍慰安婦（挺身隊）問題を明らかにしてゆくことは、私たちにはあまりにも重い課題であった。

本国と同様、いまだ儒教思想の要素が残る私たち在地同胞社会のなかで、女である私たちでさえ、女性の性の問題を取り上げることは、大変勇気のいることだった。

私たちのこのような意識を越えて、挺身隊問題が私たちの問題として、私たちが解決しなければならないものとして迫ってきたのは尹貞玉氏の地道な活動によって明らかにされてきた報告（ルポ）であったし、そして植民地支配の真の清算なしに再び日本がアジアに対する新たな侵略の道を歩もうとしていることに対する危機意識からだ。

また、これ以前に80年代後半、私たち女性会結成の一つのきっかけとなった、天人ともに怒るべき権力による性拷問事実を暴露した権仁淑氏の勇気ある闘いが、私たちの性に対する意識を変えさせたことを付記したい。

このような問題意識をもって、女性会東京、大阪、東海の3地域本部は91年度年間方針討議合宿を持ち、真相究明に向け努力してゆくことを確認した。

そして女性会東京では3月、定例会『従軍慰安婦問題を考える』をテーマに「赤瓦の家」の著者である川田文子氏を招いて講演会を開いた。まず、知ることからこの問題に向かって第一歩を踏み出したのだ。

同様に、大阪本部及び東海本部も同じテーマで定例会を持ち、学習会を行った。

『赤瓦の家』という本に出てくるチェ・ボンギさん（仮名）の半生を書きたいと思い1冊の本にまとめたのですが、私はいまだに彼女の人生というものの片鱗にも触れられなかったのではないかと思います。悔いをいまだに残しています。

今日も彼女の人生が伝わるかとても心もとないのですが、「従軍慰安婦」というものがどのような形で行われたかを説明し、ボンギさんの話をしたいと思います。

私がこのテーマに何故取り組んだのかと言いますと、韓国・朝鮮の歴史を知っていたとか、沖縄のことを知っていたというのではなく、自分自身が幼い時貧しかったという体験から、貧困という状況がなんとなく気になっていました。20年ぐらい前のことですが、松永伍一の『日本の子守歌』（紀伊国屋刊）に「間引きの子守歌」の事が書かれていました。

子守歌は本来、子どもを安らかに寝かせるために歌われるものですが、山あいの非常に貧しい山村で耕作地が少ない所では、子どもが生まれると間引きせざるを得なかったのですが、その怨念を歌った子守歌が日本各地にあったんですね。その子どもたちはやがて子守奉公に出され、15、6歳になると娼婦や芸妓や酌婦に身売りされていく訳です。以来、女の性が売買されるということに関心を持っておりまして、そのことを知っている私の友人で、沖縄でずっと写真を撮り続けていたカメラマンの松村久美さんが「高知新聞」に載った一つの記事を見せてくれました。

1977年10月22日付の「戦時中、沖縄に連行の韓国女性、30年ぶ

り『自由』を手にも、不幸な過去を考慮・法務省特別在留を許可」という見出しで始まっているのですが、「太平洋戦争末期に、沖縄へ『慰安婦』として連行され、終戦後は不法在留者のかたちでひっそりと身を潜めるように暮らしてきた朝鮮出身の年老いた女性が、このほど那覇入国管理事務所の特別な配慮で30年ぶりに『自由』を手にした。当時は『日本人』でも今は外国人。旅券もビザもないため、強制送還の対象になるところだったが、『不幸な過去』が考慮され韓国政府の了解を得たうえ、法務省はこのほど特別在留許可を与えた。」という記事なのですがこの方が実はボンギさんなのです。不幸な過去とは何かといいますと、1944年11月に日本の沖縄に連れてこられて慰安婦にさせられたことを指しています。私はこの記事を見たときに本当に戦慄しました。ボンギさんの人生を追うということは日本と韓国、朝鮮の歴史、それから日本と沖縄との歴史、その関係を辿ることになるだろうと直感したからです。しかし彼女に会ったときにそうした観念的なことでは彼女の人生に対峙できないとひしひしと感じました。

ボンギさんの半生を追う

従軍慰安婦というのを皆さんご存じでしょうか。慰安婦とは一般の身売りの形態とは違います。性が売買されるということは米軍の基地の街でも行われているし、日本でも古くから行われ、東西を問わず古今有史以来、女の性というのは売買されてきましたが、そういった一般的な性が売買されるということと、ここではっきりさせておきたいのは、国家権力によって軍隊のために植民地の女性が徴用という形で狩り出されて慰安婦にされたということです。

今までの歴史のなかでは一般的に言うと男が一ヶ所に集められると、必ずと言っていいくらい女の性が売買されました。その最も象徴的な例が軍隊であり、戦争なのです。そういう意味で従軍慰安婦というのは性が売買される典型で、ボンギさんの半生を追うという仕事がひどく重い仕事だと感じた訳です。

日本で慰安所が作られるようになったのは1938年と言われています。これは日本が中国大陆に侵略して行ったときですが、それ以前にシベリア出兵をした時、日本の兵隊が、戦死する兵隊より性病にかかって戦線に出られなくなる兵隊のほうが多く、問題になっていたわけです。その反省から1938年に軍隊の戦力を低下させないための一つの方法として慰安所が考え出された訳です。

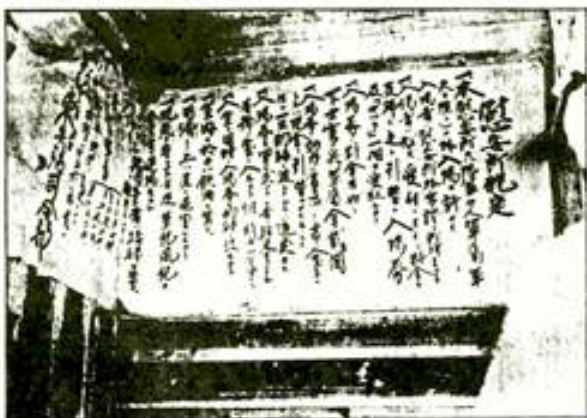
良質な性を与えるための健康な女性をという事で植民地である朝鮮の女性が考え出されました。言ってみれば、性体験のない若くて性病にかかっていない女性として植民地の女性に的がしぼられ、慰安婦にさせられて行くという経過がありました。それをどういう風にやったかと言いますと、各邑（町）や面（村）の役人や警察とかが一体になって、この地区では何人集めろというように組織的にやっています。そうすると、そこではやはり階級と云いますか、より貧しい家の娘があてられたと思われまゝ。14・5歳から30歳位の、ある文章によると「既婚可、ただし性病不可」と言うようなことが書かれているのですが…つまり既婚者までもが狩り出されています。ここにいらっしゃる方もお母さん方に聞いておられると思うのですが「女子挺身隊狩り」を逃れるために結婚を急いだとか、私が韓国に行った時に聞いた話では若い夫婦がこれを逃れるために、妻が自殺をしてしまったということもあったそうです。

植民地朝鮮で良質な性もとめ

吉田清治さんの『朝鮮人慰安婦と日本人』という本があるのですがこの中では済州島で約200人の女性が狩り集められる様相が書かれているのですが、強制連行と同じような形で女たちが集められています。塩辛などを作っている工場で働いていた女性をトラックに乗せるとか、家族と別れのあいさつもできないような状態でトラックに乗せて業者に渡す前に強姦してしまうというような事が行われています。それは戦争末期のことで、最初のうちは村や役場で警察なんかが集めるときに女子挺身隊として、一方は軍需工場とか被服工場で働かせるというような、日本国内の労働力不足を解消するための労働力としても集められているのです。女子挺身隊というものが、軍需工場や被服工場で働かされるより、慰安婦として働かされることが多いということが人々の口から口へと伝わっていきました。戦争末期になると、女子挺身隊を集めるのがとっても困難になって、先ほど言ったような暴力的に集められたと思われまゝ。

一部には業者が前借金を渡して買うこともあったようです。

慰安所での日常はどんな風だったのかと言いますと、『軍医官の戦場報告意見集』（不二出版・高崎隆治編・解



陸軍慰安所の入口に掲げられた規定

説)に昭和19年12月、山第3475部隊の内務規定が載っているのですが、その中に軍人クラブに関する規定があります。軍人クラブとは慰安所の事です。慰安所をどのように使うかということが業者に対してと、兵隊に対してと、それから慰安婦に対して書かれています。その中で重要なことを2、

3あげますと、ここは軍人・軍属以外は使えないと規定されています。また、業の婦はこの外へ出てはいけなと書かれています。それは軍の機密が漏洩するのを恐れてのことだと思います。慰安所には兵隊たちがたくさんくるので、いろいろな部隊の機密が民間に漏れる恐れがある訳です。他に衛生サックを使用することが書かれています。それから時間は40分単位で料金は将校が3円、下士官、軍属は2円50銭、兵は2円というふうに出ています。時間に関しては兵隊が12時から17時、下士官が17時から20時、将校は20時から24時と書かれています。しかし、兵隊は12時から17時までというのは勤務中なので休日でないといふ利用できません。これを見ると、山3475部隊に出されていたのとはほぼ同様に他の部隊でも慰安所が利用されていたと想像されます。

そして慰安所に行く時には上官から使用許可書と衛生サックを渡され、軍人クラブを利用したということです。

1990年6月に国会で慰安所は民間業者が慰安婦を連れ歩いたもので軍とは何ら関係がないという答弁が行われていましたが、この内務規定を見ると分かるようにこれは日本の軍隊によって、国策によって行われていたということがはっきり分かります。



慰安所に使用許可証とともに渡された衛生サック「突撃一」

国策によって慰安所運営

さて、ボンギさんのことですが、ボンギ

さんは満5、6歳の頃に一家離散をしています。お母さんのことを聞くとボンギさんは「死んだか何か分からん」と何度聞いてもそう言っていました。これは最後になって、私が彼女の生地を訪ねてお姉さんに会ったときに分かったのですが、実はお母さんは鉄道工と駆け落ちをしてしまったのです。当時、日本は朝鮮での経済支配をより強めるために鉄道敷設に力を注いでいたのです。

ボンギさんは1914年生まれです。日韓併合が1910年ですからボンギさんは生涯、自分の国に住んだことはない訳です。2回程結婚するんですが、結婚した相手が自分のお父さんがそうであったように作男であったり、あるいは出稼ぎに行ったりして、当時の貧困層の男女がそうであったように彼女も夫とは一緒に住めず、夫のお兄さんの家に居候するのですが、肩身が狭く、嫌になりその家を飛び出します。それが19歳のときです。そして、「女紹介人」と彼女は言うのですが、ゼゲンに声をかけられる29歳までの10年間のことは彼女は決して語りませんでした。29歳の時に女紹介人から声をかけられるのは威鏡道の興南という町でした。これはどういう町かというと本当に彼女の人生を辿ることは日本の朝鮮に対する植民地支配を辿る見本のような感じがするのですが、興南に水俣に本社を置く日本チッソが朝鮮チッソという会社を作り、半農半漁だった村を一大工業地帯にしていきます。そして、肥料を作り、火薬を作り、中国大陸侵略の兵站基地の心臓部とも言うべき役割を果たしていきます。その町でボンギさんは女紹介人に声をかけられました。慰安所は沖縄の民間の普通の住まいを接収して作られます。接収された家は仲渠村（なかんだかり）という家ですが、難しい名前なので沖縄では今流に表し中村という字を使っています。どうして中村家が慰安所に選ばれたかと言いますと、建てられてまだ年数が浅く、赤瓦の屋根でいい家だったからです。

沖縄は日本でも唯一地上戦の行われた所でしたが、米軍は艦船の停泊地を確保するため本島攻略に先立って慶良間（ケラマ）諸島を攻撃したのです。ボンギさんの語る“戦争”はこのときに始まります。1945年3月23日、向かいの山陰から米戦闘機が低空で現われ、赤瓦の家は爆撃されました。

ボンギさんはその後、日本軍が渡嘉敷島で最も山深い234高地の谷川沿いに急襲作った基地に、カネコという業者に連れられていきます。3月いっぱい激しい空襲が続くんですが、米軍が3月28日に渡嘉敷島に上陸します。上陸直後に当時の渡嘉敷島の住民約700人のうち、300人が手榴弾などで自決します。それはなぜかと言いますと、小さな島で逃げ場がない上に、天皇に対する忠誠心が日本人以上に（沖縄の人に日本人という言葉を使うと私たちだって日本人ではないかと言われるのですが）立派にやりたいという当時の県民の感情があったのです。そういう感情を背景にして、集団自決といえますか、敵の辱めを受けるよりは死ぬんだというような思想が浸透して行ったのではないかと思います。そうした中で700人のうちの300人ですからほぼ半数です。これは渡嘉敷島だけではなく、座間味島でも約300人、阿嘉島、慶留間（ゲルマ）でも約100人の住民が米軍上陸直後に自決しています。

8月26日、ボンギさんは山を降り、日本軍と共に武装解除式に臨みます。その後、米軍の石川収容所に収容されたのですがどの位の期間、収容所にいたのかボンギさんは記憶していません。彼女が収容所を出たときに沖縄の人々でさえ、焼け野原となって、食べるものも何もないところで、ボンギさんは知る人もなく、食べるものも、お金ももちろんない、そういう中で、本当に身の置き所がなく、一日一日自分の体を売ってお尻に火がついたように町を転々とします。

風呂敷づつみ頭に乘せ放浪

私が「おばさんどうしてそんなに一日一日場所を変えたの」と聞くと強い口調で「落ち着かん、落ち着かんのよ」って言っていました。

その落ち着かん、知らない土地に放り出されて、あのバラック建ての男たちに性をひさぐ場所で人間が当たり前の感性を持っていたら落ち着くはずがない訳です。一日一日場所を変えて、また、同じことを繰り返す、そうしなければ生きていけない、その時に着替えが入った風呂敷包み一つを頭に乘せて、皇軍の地下足袋を手にも下げて、転々とさまよい歩いたということです。私は彼女が従軍慰安婦だったから彼女に会った訳ですが、彼女の人生の中で慰安婦であった時代というのは、むしろ彼女にとってはまだ良い時代って言ったら語弊があるんですが、それ以上にきつかったのは戦後だったと言っています。

戦後沖縄では、料理屋を肴屋（サカナヤ）と言っていたのですが、肴屋では料理を食べさせるだけでなく、体を売っていたのですが、ボンギさんはそこでの毎日が一番辛かったと言っています。そして、さらにその時以上に、戦争より何より今が一番辛いと言っていました。神経痛におかされ、また、彼女を知る周囲の人たちは、彼女が狂うと言うんです。時々ドアをコンコンと叩いてもなかなか開けないことがあって、ようやく少し開けて…そういう時は顔中にサロンパスを貼っているんです。そのサロンパスは小さく切り刻んで何か所にも貼っているんです。それは、頭痛を止めようとして貼っているんですけど、絶対にその頭痛は止まらない、そういう頭痛が周期的に襲ってくる訳です。

老いて今が一番苦しいと言っていました。

< 終 >

「再び過ちを繰り返さないために」

— 「尹貞玉先生を囲む会」 —

(1991年3月20日、東京・日本YWCA)での講演—

主催：日本キリスト教矯風会、日本YWCA、
日本キリスト教協議会婦人委員会

従軍慰安婦問題に関心を寄せる人は誰でも同じ結論に至ると思いますが、この問題に対する政策は家父長制の結果であると思います。朝鮮の女性だけでなく、日本人慰安婦として日本国内に残っておられた日本の女性もまた被害者であったと思います。

私たちの究極的な関心は、平和にありますから、この問題は男性を含む社会構成員すべてを生かしてくれる自然と、人と人との関係、すなわち女性と男性というふうにとだわらず人と人との関係の問題になると思います。これらの問題に関してごく常識的な考えをお話させていただきます。

日本国会でのうその答弁

今年の1月、日本の海部総理が訪韓いたしました。年内には明仁天皇が訪韓する予定だと聞いています。私たち韓国女性は、明仁天皇の訪韓を強く反対いたします。

明仁天皇の訪韓を準備するため来韓したと思われる海部総理は、警察と機動隊が警備するなか、3・1独立運動記念碑があるバゴダ公園を訪問しました。大通りの真向かいでは、太平洋戦争犠牲者遺族会の人たちと、3・1独立運動家の子孫たちが中心になって、デモを行い、満州で武力独立運動をして功を立てた金佐鎮將軍の孫にあたる金ギョミ氏が割腹をしました。

なぜ韓国人は、海部総理の訪韓に反対したのでしょうか。明仁天皇の訪韓を韓国人は歓迎するのでしょうか。反対するとすれば、なぜでしょうか。裕仁天皇の後継者である明仁天皇が、父の行った戦争責任を負い、戦後処理を誠実に成しているとしたら、訪韓に反対するのでしょうか。

昨年5月、韓国の盧泰愚大統領の訪日の際、韓国の女性団体は、声明を通して、在日同胞の法的地位を向上させる と共に、日本が女子挺身隊問題の事実を明らかにし、挺身隊に対して賠償することなどを要求しました（韓国人は挺身隊を従軍慰安婦の意味で使っています）。

盧大統領の訪問を受けた明仁天皇は、「痛惜」の念を表し、海部総理は、戦時中に強制連行された人々を調査し、それに応じた補償をすると公言いたしました。それから2週間ぐらいあとの参議院予算委員会で、社会党の本岡（もとか）議員が、従軍慰安婦の強制連行を調査する意向に関して質問した

ところ、日本政府側は、従軍慰安婦に関しては政府も日本軍も責任がないとの旨で答弁しました。

私は、その議事録を読みながら、国会での政府側の答弁として、このような虚偽の答えは国会を冒瀆しているのではないかと思いました。女子挺身隊、つまり従軍慰安婦が日本政府の、日本の「皇軍」の政策であったことは、その当時の朝鮮人と日本の政府と「皇軍」の軍人たちが知っております。国家も軍隊も、人があって存在します。法令も人が作るし、人を相手に人が履行します。人のない政府、軍隊、法令はあり得ません。人が人に対して犯した、他に類のない非人道的な罪に対して、日本政府は、国会でこんなにいとも軽くうそをついたのです。

軍の命令で、女子挺身隊として欺かれて、実は、従軍慰安婦として強制連行されたことは、その時代を生きた朝鮮人が今も覚えています。強制連行を遂行した陸軍将校であった吉田清治の、『私の戦争犯罪』と『朝鮮人慰安婦と日本人』と、山田清吉が書いた『武漢兵站』があります。戦場によって多少の違いがあるとはいえ、経営者が民間業者であったとしても、慰安所の最終的な管理の責任が軍隊にあったことは、元軍医陸軍大尉であった長沢健一が『漢口慰安所』という本の中で証言しております。その本のあとがきで著者は「慰安所を設立し、管理監督した漢口兵站の当事者」と述べています。慰安所の任務についても、元海軍中佐、重村實は『特要員と言う名の部隊』の中で証言しております。いま韓国に住んでおられる元朝鮮学徒兵は、中国の戦場で、自分の手で慰安所を建てたと記憶しています。今でも、大部分の戦友会での話題はなんでしょう。あまりにも少数ではありますが、生き残った元従軍慰安婦たちの中、彼女たちが慰安婦であったことを公に知らせた方たちは日本政府側の答弁が、うそであることを証明してくれます。



〈慰安所〉各室入口扉の上に番号と源氏名が書かれている

「処女供出」、「処女狩り」

日本軍が、朝鮮の未婚の女性を慰安婦に「狩りたてる」ことに決めたのは、満州に駐屯していた関東軍が、中国侵略を決定した1937年だと思われます。この時の女性の年齢は17から20歳まででした。もともと日本女性の売春婦たちが、慰安婦として関東軍満州駐屯の初めからおりましたが、性病が多く、大分年をとっておりましたので、今後、中国との戦争で必要な体力に満たないと計算したからだとのこと。厳しい儒教的な眼を受けている朝鮮の女性は、性病の心配はないと考えたのでした。この経緯については麻生徹男の『花柳病の積極的予防法』の中で詳しく述べられております。その頃朝鮮では、こうした未婚女性の連行のことを「処女供出」とか「処女狩り」と呼びました。関東軍首脳部の命令は、総督府に下り、道・郡・面・里に下り、軍人が駐在所の巡査の協力で、面書記や里長を先に立たせて、主に娘の多い貧しい小作人の家から未婚女性を半強制的に、また半ばだまして狩りだしたのでした。たとえば軍隊の食堂で働くとか、兵隊さんの洗濯をするとか、看護婦の助手になるとか、1日3回白いご飯を腹いっぱい食べられてたくさんもうけられると誘いました。南京大虐殺(1937年12月13日)直後からは本格的に「女狩り」が始まり、1943年から1945年にかけて戦場が拡大するにつれて井戸端で、田畑で、道で、工場で、家の中まで軍靴のまま乱入して14歳ぐらいから30歳ぐらいまでの女性を、暴力的に連れ去りました。その数は10万から20万人ではないかと推測されます。その時代、朝鮮では、女性のこのような徴用を逃れるために結婚を急ぎ、17、8の娘が男性でさえあればということで50過ぎの4、5人の子持ちの中年男性と結婚させました。※これはまだましなほうで、盲人でも、肺結核病者でも、前科者でも教育程度も問題にせず結婚させました。その結果、終戦後は一大離婚騒ぎを演ずるといって、笑うにはあまりにも深い傷を受けた人が多いのです。



※下線は編者が入れたもので、あえて原文のまま掲載しました。

パンフ 「国家という名の暴力」13号によれば、河州にいたある慰安婦は、軍人65名までは数えたけれども、その後は失神して何人が来たのかわからなと告白しております。慰安婦になることを断った沖縄のある売春婦は、朝鮮人慰安婦の中には共同便所のような仮小屋で1日100名を相手にした人もいたと証言しています。沖縄や太平洋の島々で空襲が激しくな

り、供給が絶たれてからの状態は皆様もご存じのことと思います。 朝鮮人慰安婦の中には、いま那覇におらう 裴奉杓（ペ・ポンギ・仮名）さんのように日本が負ければ自分も死ぬ、米軍が自分を犯してからはどんなふうに殺すかわからないといった日本軍のこたばを呑みにし、食べられる植物や根を探し回り、弾薬を運び、看護婦にもなり、洗濯をし、炊事をし、夜は慰安婦になったそうです。彼女は日本軍の降伏後は沖縄の女性を護るために米軍の慰安婦にさせられたようでした。収容所を出た彼女は1ヵ所に落ち着かず、あてもなくさ迷いました。何故でしょうか。敗戦後1988年、私が2度目に彼女を訪問したときも、頭痛で苦しみ人間嫌いになって、私と会ってくれませんでした。理由はどこにあるのでしょうか。那覇の大通りを30代の、元朝鮮人慰安婦が万歳を叫ぶように両手を高くあげて「私は朝鮮人」と叫びながら走り回ったそうです。その人は精神病棟から逃げだしたのですが、海毒で脳が侵されていたそうでした。



慰身隊遺棄現場：慰身隊に連れて行かれた朝鮮人女性たちが集団殺害された沖縄の洞窟。敗戦を目前に彼女たちの処刑にこもり、青酸カリが入った牛乳を飲ませ 洞窟内に押し込め手榴弾を投げ入れ遺棄した。

内鮮一体の体制の下で、連行された朝鮮人慰安婦は、敗戦とともに日本人でなくなりました。館山市カニタ村の城田鈴子さんが証言しているように戦場に置き去りにしたのはいいほうです。従軍慰安婦の存在を隠すために、また足手まといだという理由で、彼女たちには敗戦のニュースを知らせずに米軍の空襲があるからといって、塹壕に入れて爆破したり、機関銃で射殺しました。1990年、韓国の女性団体が日本政府に公開書簡を出した記事を読んだ元朝鮮人軍人、李知泳さんは次のような証言をしてくれました。中国にいた李さんたちは帰国船にのるために上海に集まりました。帰国船を待つ間、李さんたちは、ある朝鮮人が経営する食堂を訪ねました。食堂は20ヵ

所ぐらいあったとのことでした。不思議なことにどの食堂にも4～5人の20歳ぐらいの朝鮮人女性がおりました。例外なく彼女たちは病人のように不健康に見えました。顔はうすぐろく、できものがあり、蜂に刺されたように赤く腫れ上がったような者もありました。李さんは理由を聞いてみましたが、彼女たちは体の具合が悪いだけだと答えました。そのうち李さんはひとりの女性から彼女たちの健康についていくつかのインフォメーションを探り出しました。彼女たちは、漢口慰安所から来たのでした。慰安所にいた時には、定期的に注射を受けて抑えていた性病菌が注射を受けなくなって表面に出始めたのです。彼女たちは負傷兵の看護をするのだと思って挺身隊になったのですが、漢口の慰安所に入れられて自分たちの任務がなにかわかるようになりませんでした。その時、2～3人の娘が2階の窓から投身して死にました。日本の司令官の努力で李さんたちはついに帰国船にのりました。けれども彼女たちの大部分は帰国を断り、少数だけが乗船しました。1946年9月釜山に到着しましたが、上陸の手続きで船の中で一夜を過ごすことになりました。その晩寢室をでていた同僚の一人が、駆け込んできて、「彼女たちが投身した」と知らせてくれました。帰国船にのった従軍慰安婦の数はそもそもごく少数でありましたのに、またも2～3人が身投げをしたのでした。父母兄弟と故郷の山河がなつかしくて帰国を決心したのですが、故郷の山河を目の前にして家族に会う勇気がなかったのでしょう。従軍慰安婦としてはましな待遇を受けた彼女たちも、家族が彼女たちをどのように受け入れるかの問題以前に彼女たち自身が自らを受け入れられなかったのだと思われます。それは、那覇の裴奉奇さんや、タイのハッチャイにおられるユ・ユタさんのように、帰国を拒む本当の理由がそこにあるのではないかと思います。封建的で、男尊女卑的な性倫理によって、生命よりも大事な貞操を犯され、強制的であるにせよ、売春をしたということが被害者である女性の恥とさせられる観念です。それは自らだけでなく、家族の恥辱であり、村の恥辱になります。ですから、生きている彼女たちは自分たちが生きているのが恥であると思っているのかも知れません。

朝鮮人慰安婦は民族滅亡政策

皆様、朝鮮人慰安婦の立場になって考えてみてください。朝鮮人、韓国人になって考えてください。14歳から30歳までの20万人近い若い女性、その一人一人には父母兄弟、友人、子供、夫がありました。将来の計画があり、考えがあり、感情がある人たちでした。その人たちがこのように自らをも受け入れられぬ人々になっているのです。



強制的に連れて行かれたり、甘言にのせられた慰身婦少女たちが戦場に立つ場面。
日帝は慰身婦に関する記録を徹底的に焼却、参戦人員や死亡数を推定すること
さえできない。

私の聞くとところによれば、日本では戦争犯罪の重い軍人が、むしろ年金が高いとのこと。日本ははたして侵略戦争の責任を感じているのでしょうか。

一視同仁、同祖同根の体制の下で彼女たちは軍の特務要員として強制連行されました。身も心も「皇軍」に捧げた「天皇陛下」の「下賜品」にさせられました。兵隊さんたちへの「配給」という名で部隊に送りこまれました。将校「用」慰安婦、下士官「用」慰安婦にさせられました。衛生的な「共同便所」扱いを受けました。日本の「天皇陛下」が朝鮮人も日本人と同じようにいつくしんで「天皇のため」に「お国のため」に生命を捧げる機会を下さって、「天皇」の「赤子」を慰める「物」になったばかりでなく、「共同便所」にまでなりました。彼女たちを最後の瞬間まで酷使し、なんにも役に立たなくなった時は病院に送りました。それは治療をするためではなく死ぬのを待たためでした。人が人に対してこのような非人道的な罪を犯したのです。今は日本が経済大国になっていますが、従軍慰安婦たちに賠償はおろか年金も医療保険もありません。

日本と朝鮮の関係は考えても考えてもわからないところがあります。敗戦後日本は朝鮮戦争が契機になって経済的に復興しましたが、敢えて大東亜共栄圏のスローガンをたてられたのは朝鮮を植民地にして　その経済的収

奪、労働力の収奪を計算していたからではないでしょうか。ついには略奪をこえて破壊、滅亡させようとしていたのではないのでしょうか。私は従軍慰安婦政策を通して日本の朝鮮植民地政策の本質が把握できると思うのです。戦争中朝鮮人たちは、若い男性は労働者として軍人として連行し、若い女性は日本軍のえじきに狩りだすと嘆きました。元日本軍だったKさんの証言によれば、戦場でも日本の兵隊たちは「朝鮮の若い娘をみんなかき集めて慰安婦にして朝鮮民族のタネを絶滅させるのだ」とおおっぴらに話していたそうです。

私には、一部の日本の女性が考えるように従軍慰安婦政策が、当時の軍人の性欲処理だけにあったとは考えられません。日本は広開土大王碑の文字を捏造し、土地申告制を通じて朝鮮半島で朝鮮人の土地を奪い、日本の銀行を建てて貨幣を集めました。

即ち、歴史を捏造し、土地を奪い、金を奪って、朝鮮から人々を国外に追いはらい、半島の南部にはあらゆるよい条件をそなえて日本人を計画的に移住させました。当時朝鮮の象徴であった王家の血統を断つつもりで、あるいは血統の純粋性をなくすつもりで李英親王と方子を結婚させました。今でも韓国では、方子はもともと裕仁天皇の皇后に推薦されたのですが、妊娠不可能の診断を受けたため李英親王と結婚させられたと考えられており、妊娠不可能の診断を出した医者は方子が妊娠した報告に接し、自決したと言われています。対馬藩主と強制的に結婚させられた徳恵翁主は、精神錯乱になり植物人間のような一生を送りました。また、昌慶宮の地形を変え、王宮の名前をそのままおいて動物園に作り替えた意図や、花札、公娼制度を導入し、もしある家で朝鮮の国旗が発見されればこれは懲役ものでした。

また、国の花である木槿が庭にあれば引き抜いて持って行ってしまいました。そのうえ米の配給まで断たれてしまいました。

日本はあらゆる方法で朝鮮人自身が自分の民族が劣っていると信じ込むように歴史を歪曲捏造し、特に団結して独立するのを未然に防ぐために分党・分裂を好む民族だと洗脳しようとしていました。

私は皆様に珍しい法令を紹介いたします。中国と台湾では阿片をすう風習がありました。満州国を建てた日本は表向きには阿片を禁じましたが、阿片喫煙所を設置したり、開拓団、警察、特務隊は賃金の代わりに阿片を支給しました。一方、朝鮮人が阿片を危険視していたのを知っていた総督府は次のような法令を作りました。阿片をやたらに売ったり提供する者には6カ月以上7年以下の懲役に処す、モルヒネをやたらに売ったり提供するものには3カ月以下の禁固または5百円以下の罰金に処す、阿片をすったものには3年以下の懲役、モルヒネの注射を受けた者は無罪となっています。つまり阿片を危険視した朝鮮人には朝鮮人がその存在をよく知らなかったモルヒネを浸透させ、朝鮮人を精神的、肉体的に衰えさせようとしたのでした。1921年3月、中央法律新報で金俊淵法学士は論文の中で「朝鮮の当局者は、まさかその取締りを寛大にして仁政を誇らんとするのではあるまい」と書いてい

ます。

再び過ちを繰り返さないために

終戦時、3千万の人口を持っていた朝鮮を政策的に破壊して強くなった日本は、現在、経済大国となり、産業で儲けています。産業は生態系の破壊を前提にしています。アマゾン奥地の破壊、ボルネオとマレーシア等の東南アジアの森林の破壊、この自然の破壊はその自然の中で住んでいる原住民を、およそ直接的に殺していることを見逃してはいけないと思います。

産業で金を儲けている日本は、生態系破壊と共に人の生活基盤を奪っているのです。帝国主義軍国主義の時代の日本が他を収奪破壊して自ら肥えた時と、今、産業で肥えているしくみは根本的に同じだと思います。近頃まで私はこのように人と生態系の犠牲の上で儲けた金は誇らしくもないのに「金余り」という言葉が出るほど肥えている日本が、あのように残虐に扱った従軍慰安婦に賠償どころか、その事実すら認めようとしない態度が理解できませんでした。しかし、今は少しずつ分かってきたような気がします。

昨年10月、韓国の女性団体は日本政府に公開書簡を出しましたが、日本政府は私たちの督促の書簡にも今まで返答していません。

私たちの要求は、

1. 挺身隊の事実を認めよ
2. 公的に謝罪せよ
3. 挺身隊本人あるいはその遺家族に賠償せよ
4. 慰霊碑を建てよ
5. 挺身隊の事実を公開せよ
6. 挺身隊の事実を歴史教科書等で教え、同じ罪を繰り返さぬようせよです。

日本が私たちの書簡に返答しないのは、世界に自分たちの恥部を見せたくない自尊心だと思いますが、大金持ちになっている今、私たちの声が聞こえなくなっているのかもしれないし、金が力になって傲慢になって恥知らずとなっているのかもしれないと考えるようになりました。私のこの考えが誤りであれば幸いです。

皆様はよくご存じのはずです。日本の軍事費がどのぐらいかを。今度の湾岸戦争の後、アメリカは日本の再武装を頼んだそうですが、日本側の反応はどうですか。今までの戦争責任を問わず、戦後処理をなさぬ日本は、日本が犯した侵略、それにともなう相手、その一人一人の人生は世界全体ともかえられぬ貴重なものであるのに、その人々に犯した加害に対して反省しているとは思えません。そればかりでなく戦後46年になる今、経済大国になって反省どころかパプアニューギニアなどに行つて、金をちょっとふりまいて大いばりしているのではないかと思います。私もそこへ行って日本人の行為を

少し見ましたし、関口典子さんの「戦場の女たち」という映画で、元日本人が「なぜバブアニューギニアに補償するのか、何も迷惑をかけていないのに、その国を戦場に使っただけだ」と話しているのを聞きました。生産産業が帝国主義と変わりなく破壊の上での肥満であるうえに、日本がまたもや武装するとすれば周囲が犠牲になるばかりでなく、日本が第二次世界大戦の時のような過ちを再び繰り返すようになるのではないかと思います。一度あった歴史的事実は、それを認めないとしてもその事実がなかったことにはなりません。その事実を公的に処理しないとすれば、その結果が原因になり、否定的な結果をまた生み出すと思います。正直なのは科学だといいますが、人間関係である歴史的現象も化学や物理的現象に劣らず正直だと思います。戦争責任処理が公的に問われなかった結果が、今日に至っているのではないかと思います。

新しい歴史の章を開こう

在日同胞に対する法的冷遇、強制連行された労務者や勤労挺身隊と従軍慰安婦、被爆者等々に対する言語道断の無責任な態度です。日本は植民地時代に朝鮮人に犯した罪を謝罪し賠償すべきです。日本は敗戦前アジア諸国に加害し、敗戦後は生態系を破壊し、労働力を収奪して金持ちになっています。いつまでもこのような方法で「脱亜入欧」しようとするのでしょうか。脱亜入欧ってどんな意味ですか。日本の発達したテクノロジーで日本列島を欧州に移植しようとする考えです。自らを否定するのですか、アジア全体の長い歴史、その文化に誇りを感じないのですか。

常識的に考えて、私は日本政府は体質を変えるべきではないかと思います。私たちが位置づけられたアジアで、隣国の人々と望ましい関係を結び共に生きるべきだと思うのです。共に住むために日本は信じられる国にならねばなりません。日本政府や日本軍は従軍慰安婦とは関係がないというふうな嘘は言わないで、戦争責任を負い、戦後処理をする道徳的な国になってください。キリスト教信者でおられる皆様が、韓国の挺身隊問題対策協議会で日本政府に要求した6つの事項を日本政府が受け入れるようにすることから始めてください。これは1. 事実を認めよ。2. 公に謝罪せよ。3. 明らかに事実を公開せよ。4. 謝罪碑かあるいは慰霊碑を建てよ。5. 本人あるいは遺族に賠償せよ。6. こうした過ちを再び繰り返さないために、歴史教育の中でこの事実を語り続けること。そうすれば韓国人は日本が心から朝鮮の侵略を反省しているのだと信じられると思います。何故ならば従軍慰安婦事実は日本の朝鮮植民地政策の本質をあらわしているからです。また、口ばかりの善隣でない、新しい関係が結ばれば、信じられる日本だと思うようになるはずです。そうすれば、21世紀を目指して生きている日本と韓国の私たちは、隣と生態系を奪う態度でなく、我々のために共に住む新しい歴史の章をひらくことになるでしょう。

<終>

隠された歴史、

20万従軍慰安婦真相究明、

いまこそ戦争責任を明らかに！！

梨花女子大学校女性学科

女性新聞 1990年5月25日号

挺身隊は、日帝の植民地侵略に対する完全な認定と補償がなされていないことから起因している在日同胞の法的地位問題、徴用、原爆被害者問題などと脈絡をつにする、わが民族の苦難の歴史のなかの一部であることは明らかである。在日同胞の法的地位、徴用、原爆被害者問題などはある程度世論化過程を経ながら、解決の当否性に大多数の人々の同意を得た。しかし、挺身隊の歴史だけは唯一、その歴史的な背景、真相、被害者などが知らされないまま葬られてきた。

挺身隊問題がこのようになおざりにされてきた理由は、まず日本が過去の帝国主義的蛮行を隠べいし、戦乱の罪過に対する責任を回避するために関連資料を徹底して廃棄したことにある。第二の理由としては、歴代政権の反民族性、反民衆性が植民地的残しの清算を留保し、植民地時代の民衆の苦痛を黙過することによって、自らの政権維持だけを狙ってきたところに起因する。第三に、挺身隊は戦争という極限状況の中で「女性に対する性的じゅうりん」が極めて残酷にほしいままにされた事件であったにもかかわらず、現在のような男性中心社会では、その被害者である女性たちがその過去をはっきりと明かしたり、世論化させることができない事実を理由としてあげることができる。第四に、民族史の受難と女性の受難、そしてそれらの今日的意味を究明し、解決しようとする学界と女性界の無関心を指摘しないわけにはいかない。

したがって、挺身隊の歴史的背景、真相を明らかにし、その解決を促す作業を通してわたしたちはわが民族の受難の歴史を正しく究明し、民族の尊厳を取り戻して被害者たちの粉々に壊れた生と人権を復元しなければならない。

また、挺身隊の問題は過去の恥辱的な歴史としてだけ存在するのではない。いまでも、外貨獲得という美名のもとに、キーセン観光や米軍相手の売春をとおして帝国主義の性収奪によって苦痛を受けている女性たちの問題とつながっている。

いまやこれ以上、葬っておくことのできない挺身隊問題の徹底した究明と可能な解決を通して帝国主義的な性取奪の今日的意味までも明らかにしなければならない。

日本軍の士気高揚操作のための犠牲物

では、不確実ではあるが、今まで知られている挺身隊の歴史を見てみよう。

1937年、「大東亜共栄圏」を夢みた日本はついに中国侵略を敢行し、中日戦争が始まると、日本帝国主義の朝鮮取奪政策は日本本土から戦場に移されるようになる。これにしたがって、朝鮮の男性たちは兵力補充のために徴用され、戦場や軍需工場、炭鉱などに送られ、少女たちは看護婦、洗濯要員などの特殊任務を充当するという名目のもとに（それこそ、それは名目であり、実は日本軍相手の慰安婦を徴発したものであった）、大規模に徴発されはじめた。

朝鮮の少女たちが日本本土に引っ張られ、軍需工場や売春街に売り飛ばされるのは、1910年代からもちろん公然と行われてきた。しかし、政策的に朝鮮女性が大規模に徴発されたのは、1938年初めだと推定される。当時、関東軍の満州駐屯が長期化し、中国本土に多くの日本軍が投入されるにしたがい、長期的で大規模な戦争遂行のためには軍人たちに対する統制と士気の高揚操作が要求された。しかし、日本本土の女性たちを強制的に連行していくことはできず、「キジの代わりにニワトリ」式に朝鮮女性たちの徴発が始まる。慰安婦の徴発のために日本軍首脳と朝鮮総督府、日本の売春業者の間で秘密協定が結ばれることによって、挺身隊の徴発は本格化した。

その後、1942年の日本の真珠湾攻撃以後、太平洋戦争が拡大されると、再び多くの女性たちがだまされ、あるいは強制的に中国、タイ、ビルマやインドネシアなど太平洋の諸島に送られた。このように従軍慰安婦として動員された17～20歳の間の女性の数は詳細には明らかにされていないが、約17万～20万人と推定される。日本の「毎日新聞」（1990年2月2日付）の鈴木裕子氏の文章によると、そのうち朝鮮女性が80～90%であったという。

動員された女性のうち、日本女性たちの場合、主に以前から売春に従事していた人が多かったが、朝鮮人たちは学校、工場、農村から手当たり次第に全国各地から強制的に引っ張られてきた十代の中・後半の女性が大部分であった。鈴木裕子氏は「このように引っ張られてきた女性たちは朝鮮人であるうえに、女性として、朝鮮を植民地化した勢力によって二重に搾取された」と記している。

日本政府の組織的戦争犯罪

その後、1944年8月23日付で日本厚生省令によって「女子挺身勤労令」が公布されることで、挺身隊徴発は名実ともに合法的な「政策」として遂行された。この法令により女性たちは国民動員計画による常備要員として把握され、男性たちと同様に強圧的に徴用されるようになる。そして、同法の違反時には国家総動員法6条によつて「1年以下の懲役かもしくは1千ウォン以下の罰金刑」を受けるようになっていく。

挺身隊の徴発がこのように日本帝国主義政府によって法的に制度化され、公然と遂行されたという事実は、それが単純に日本人が犯した「蛮行」の次元を超えて、軍国主義国家によつて組織的にしでかした戦争犯罪であることを物語っている。このような意味から、挺身隊は韓民族の歴史をじゅうりんした「最も残忍な形態の犯罪」であるといえる。

敗亡後には射殺・生き埋め

このように動員された彼女たちは、昼には弾薬運搬員や炊事要員、洗濯婦、看護婦として爆撃の危険にふるえ酷使され、夜には日本軍を相手に「慰安行為」を強要された。

梨花女子大・尹貞玉教授の挺身隊の取材記（「ハンギョレ新聞」1月12日付）によると「慰安婦の需要は『ニクイチ』といわれ、日本軍29人に朝鮮人女性1人と計算されたが、日本の敗戦間際には慰安婦1人が日本軍を百人も相手にした」という。また日本人挺身隊出身で韓国人挺身隊の実情を証言した城田すず子さんによれば、「韓国女性たちはチマチョゴリを着たまま日本軍見張りの厳しい監視のなかで、昼夜をわかつたず訪ねてくる日本軍兵士たちの相手をしなければならず、時には最前方部隊を巡回し、休む間もなく体を提供した」という。

当時、朝鮮人慰安婦たちには名前のかわりに固有番号が付けられ、相手をする女子の番号表を持って慰安所前に列を作って待っている兵士たちは自分の番がくれば、それこそ「半狂乱」な虐待を加えたという。これに耐えられず自ら生命を絶った人が続出した。少しでも反抗したら、監督に殴られ、髪を引っ張られたり、半裸の状態であちこち引きずられるという受難を受けなければならなかった。

日本が戦争に負けて米軍が上陸すると、日本軍は自分らの罪悪を隠ぺいするため慰安婦たちを帰国させるとだまし、トラックに乗せた後、射殺したかと思えば、防空壕の中に追い込み生き埋めにしたり、ジャングルの中にそのまま置き去りにし

て逃亡してしまったりした。

戦争が終わり、日本が負けると強制的に連れてこられた朝鮮人たちが次々と祖国の地に向かってたつ時、彼女ら挺身隊は祖国に帰る夢さえ見られなかった。

ずたずたに引き裂かれた体と心、しゅう恥心ゆえに彼女たちは故郷に帰ることは考えられないことであるとはいえ、戦争後、そのまま捨てられた彼女たちに旅費があろうはずもなかった。

挺身隊は民族史の象徴

このように置き去りにされ、日本と太平洋各地の島を転々としてきた慰安婦たちは日本軍とともに米軍の捕虜収容所に収容されたが、結局、再び米軍相手の慰安婦に落ちていくようになる。日本軍相手の慰安婦がそのまま米軍相手の慰安婦になる挺身隊の歴史は、帝国主義にじゅうりんされた悲慘な朝鮮現代史の運命を象徴的に見せてくれる。

植民地の民衆として、そして女性として民族の受難を体で受け止めてきたこの女性たちは、その後も人間として正常な生を奪われたまま根のない生を生きてきたうえに、故郷の地を懐かしみ、恨み多い一生を終えたり、過去の悪夢を抱いたまま自分を隠し、異国の地で生きている。彼女たちの地獄のような過去を蘇らせ、それを明かすことによって、再び被らなければならない精神的苦痛を受け止めるには、彼女らの過去があまりにも悲慘であるからであろう。

このように悲慘な挺身隊の歴史はいま、日本の帝国主義的罪過と韓日間の政治的協商テーブルで徐々に忘れられるにしたがい、さらに究明の可能性が少なくなってきた。

しかし、挺身隊は日本帝国主義国家が政策的次元で法令まで制定し、敢行した戦争犯罪の一つであるため、その解決も同様に帝国主義戦争の主体によって公式的に解決されなければならない。挺身隊問題の解決とは、挺身隊と関連したすべての蛮行に対する日本政府の公式的認定と謝罪、生存者に対する物的補償と慰霊碑建立などを通じた人権復元を含むものだ。現政権も同様に、政治的協商物としてではなく、民族史の復元という次元から挺身隊問題の解決に注目しなければならないであろう。

訳責：在日韓国民民主女性会

分断克服のために、南北の女性たちは
手をつなごう！ —そして従軍慰安婦問題も・・・—



南北女性代表6名の座談会
「ハンギョレ新聞」
91年6月9日付

「アジアの平和と女性の役割」と題するシンポジウムが、東京、神戸で5月31日から6月2日にわたって韓国、朝鮮民主主義人民共和国から代表各3名が参加する中で開催された。

分断46年ぶりの歴史的な出会いを持った南北の女性たち、どれほどこの日を待ちこがれたことだろう。分断克服と統一のために女性たちが先頭に立とうと誓い合ったこの歴史的瞬間は、統一運動、女性運動から見てきわめて意義深いものである。

それだけでなく、このシンポジウムで韓国側代表の一人である尹貞玉氏（挺身隊問題対策協議会代表）が朝鮮人従軍慰安婦問題の真相究明を訴えたことは、南北女性が手をつないでこの問題に取り組んで行くひとつの契機になるだろう。

名前も光もなく……ノクブりに嗚咽

「日本『挺身隊』追慕祭参加記」

尹 榮愛（韓国教会女性連合会）

ハンギョレ新聞1990年11月4日付

毎年渡嘉敷島で開催される「太平洋戦争犠牲者慰霊祭（10月25～27日）」の行事に今年初めて挺身隊追慕祭がもたれ、韓国女性連合会挺身隊研究会金ハウォン研究員、キリスト教長老会女信徒会金ギョンヒ総務とともに10月24日、日本に向かった。

到着すると、趙スオク（77歳、女性、韓国社会福祉協議会会長）、金ウォンヨン（70歳、ソウル地域太平洋遺族会会長）、李サンチュン（70歳、慶尚地域太平洋遺族会会長）、金ムンスク（64歳、女性、釜山経済人協会会長）など4名もきていた。

趙さんは日帝時、神社参拝拒否で5年間獄苦をなめ、金さんは沖縄従軍慰安婦幕舎建設の監督をしており、李さんは「座間味島二分隊軍属だった当時会った慰安婦が18歳の忠清道出身の娘であることを知り、二人手を取り合って泣いた」と聞かせてくれた。

翌日私たち一行は、沖縄戦跡地を見て回った。その跡地ごとに、米軍と日本軍が接戦した当時犠牲となった沖縄住民のための慰霊碑が建てられていた。

しかし、日本軍あるところどこにも従軍した挺身隊の慰霊碑は見る事が

できなかった。

27日朝、船に乗り、渡嘉敷島に向かった。私たちは準備していった太極旗を船に結び付け、李先生の先唱で<他郷暮し>など、かつて流行った歌を涙にむせび歌った。

「当時、強制徴用された韓国人たちが、涙に濡れ歌った歌」と李さんは、回顧した。

島肌が立つほど青い海の上をゆく船に揺られ、「15～16歳の若い娘たちが言葉も通じない日本の兵士たちに引かれいったときどれほど恐ろしかっただろうか」と思うと胸が震えた。

1時間20分あまり、孤島渡嘉敷に到着した。第二次世界大戦時、熾烈な激戦地であったここには、当時犠牲者たちを1カ所に集め置いた白玉塔があった。塔の下には、身元の確認された400余名の名前が石碑に刻まれていたが、すべて日本人の名前で韓国人の名前はなかった。

しばらくしてのち、渡嘉敷島周辺の海が広々と見おろせる高台に祭壇がしらえられ追慕祭が始まった。準備してきた小さな太極旗は胸に掲げ、大きな太極旗は台の上に広げた。渡嘉敷島首長の開会辞に続き、金ウォンヨン、

趙スオク、日本人証言者たちの弔辞があり、金ギョンヒさんが、詩人車チョンミさんの詩〈名もなく栄光もなく――挺身隊を想う〉を朗読した。

慰・安・婦 誰が歴史の泥沼のなか
血の膿で染みついた
あなたたちの名を忘れようか
無名のあなたたち、光もなく
植民地民衆の哀しみ
全身で、その身すべてで受けたであ
ろう……

沖縄朝鮮舞踊研究所、姜フィソン院長が挺身隊女性たちの魂を慰めるノブリの舞を踊った。海風に「オンマ、会いたいよ」「助けて」「いいようのない私の恨はらしておくれ」という泣き叫びが聞こえたような思いを私たちは抱きつつ、焚香しながら嗚咽をこらえきれなかった。

さらに、挺身隊の唯一の生存者であるベ・ボンギさんを助けるある在日同胞が、北韓旗を掲げ追慕祭に参席し、私たちはみんなで「我らの願い統一」をともに歌いながら挺身隊問題は、南と北がともに解決しなければならない課題であることをいま一度痛感した。

「挺身隊問題は、すでに過ぎ去った恥ずべきことなのに、何故いまさら取り立てるのか」という人たちがいる。しかし、人狩りされるごとく強制的に連れていかれた挺身隊が、日本の兵士たちの慰安婦として過ごさねばならなかった、受傷（侮蔑を受けること）と悲痛をそのまま埋もれさせておくわけにはいかない。

生存者たちの証言もときたま報道されているが、日本政府は90年6月参議院会議で「従軍慰安婦は民間業者が取り扱ったようですが、政府には実態調査をする責任はない」という暴言をためらうことない実情である。

私たち一行は29日午後1時、参議院会議室で清水澄子など女性参議院議員9名を始め、挺身隊問題に関心のある日本女性団体会員たちと席を共にし、挺身隊問題に対して真摯に討論をした。さる10月17日、国内女性界で、韓日両政府に送る公開書簡と日本政府の挺身隊問題真相調査・公式謝罪等を要求した7項目について聞きつけた清水澄子議員などは「挺身隊問題は歴史的に必ず照明されなければならず日本政府はこれに対して謝罪・補償しなければならない」としながら「挺身隊問題を専門的に取り扱う韓日の協議会を構成し、よい結果が出るまで協調したい」と語った。

日本NCC女性委員会など女性団体は「挺身隊問題を社会問題に浮上させていこう」と確認した。

清水澄子議員の案内で外務省に回り、抗議書簡を伝達し、来る11月30日までに日本政府の誠意ある回答を送ってほしいと要求した。遅きに失した感はぬぐえないが歴史の水面に浮上した挺身隊問題にみんなが関心をもち、真相が究明されるよう努力することを帰国の途に着いたなかで私たち一行は繰り返し約束し合った。

訳責：在日韓国民民主女性会

血の滲む叫びに

あなたの祖国も母も父も兄も

あなたのけがれた身が恥ずかしく 背反の歲月

供物ひとつなく五十年も黄泉にさまようとは

あなた、この地の悲しく心痛む十字架よ

踏みつけられた 野の花に生き返り

恥ずかしさになげく私たちを目覚めさせ

背反に憤りを覚える祖国でも、手さぐり求めるのか

お下げ髪 澄んだ眼差しの花のような十六の娘でなくとも

もう 帰ってきて静かに休んでください

私たちの頼もしいひさを枕に

植民地女性としてもう辱めをうけぬよう

いま 平和の小さな碑を建てよう

あなたは いつも純潔な私たちのオモニ

もう静かに翼を休め

もうこれ以上さまようことなく

安らかに 安らかに 休んでください

あなた、朝鮮の十字架よ

朝鮮の涙の花よ

訳責 在日韓国民主女性会

挺身隊に引っぱられた全羅北道地域の女性たちが「全羅北道女子勤労挺身隊」という旗を持って写真撮影をしている。12歳～16歳の少女たちはやがて訪れる悲しい運命も知らず微笑んでいる

あなた、朝鮮の十字架架よ

— チャン・ジョンイム —

だが あなたの 血塗られた全身を洗い

あなたのずたずたにされた 心臓を縫い合わせ

安らかに 眠らせてくれるのか

祖国より先に踏みにじられ

解放より先に忘れさられた

歴史の涙の花よ

ウエノムの性欲処理器軍需品として蔑まれた

夕顔の花のようなあなた

だがあなたの冤(えん)魂(たま)を鎮めてくれるのか

周旋屋にだまされ

皇国報恩だとの女性指導者の演説にだまされ

洗濯婦 裁縫師のつもりで出発した金さん 朴さんの娘

黒いチマ、白のチョゴリの純潔なあなたは

昼は労役 夜は慰安婦で全身がずたずたに

北海道 沖縄 タイ バプアニューギニアで

一日に何百回となく犯されたあなたの性 あなたの人權

裸で追い出され 断崖から身を投げるとき

オモニ

オモニ



■ルポ「従軍慰安婦の足跡を追って」

ハンギョレ新聞1990年1月4日付～1月23日付（4回連載）

私が挺身隊の足跡を訪ねて彼女たちの悲惨な過去を明らかにしようとしたのには、私なりの理由がある。

1944年12月、梨花女子専門学校1学年の時、日帝が韓半島各地で、未婚の若い女性たちを手当りしだいに挺身隊に狩りだすむごたらしいできごとが繰りひろげられた。そのため、多くの学生たちが結婚するという理由で急いで退学をし始めると、慌てた学校当局は「学校が責任をもって言うが、あなたたちには、絶対にそのような目にはあわせない」と公言した。

しかし、しばらく後、私たちは国民総動員令に応じるという書式に捺印しなければならなかった。

私は両親の言葉に従い学校を退学して、挺身隊を免れたが、その当時、同世代の多くの乙女たちが、日帝によって狩り出されていった。

20世紀に起こった、このむごたらしいできごとが、ともすれば21世紀にまで引き継がれ、第二次世界大戦という言葉すら聞いたことのない世代にまで及ぶことを考えると、恐ろしい気持ちを禁じ得ない。私はこのできごとだけは忘れてはならず、歴史的に整理しなければならないということに、全ての人々が目覚めなければならないという一念から、この仕事に取り組むに至った。

筆者は仮に、日本がわが国の若い女性を、なぜ、どのようにして、どのくらい狩り出し、どのようなことをしたのか、戦争の後にどのようなことがあって、こんなにも帰って来る人がいないのかを、その時すぐに明らかにし、

戒めていたなら、今日のように基地村で、また、観光地で、外国人を相手に外貨稼ぎをする韓国の売春婦は多くはなかったであろうと考える。

沖縄をはじめとする他のさまざまな所で、日本軍の慰安婦だったわが国の女性たちが戦後、連合軍の慰安婦に再度させられたということを発見し、この思いはさらに切実なものになった。

この文は、1980年12月と1988年2月と8月、そして昨年7月の4回にわたって日本の北海道と沖縄、タイのハッチャイ、バブアニューギニアで、挺身隊の血と涙の足跡を追ひ、現地の新聞や古い資料を調べ、関係者の証言を集め作成した記録である。



尹貞玉前梨花大教授

1.北海道

日本、沖縄の那覇市の南にある糸満市の平和記念公園には、日帝時に徴用された朝鮮の若者のための慰霊塔があって、李ウンサンの挽歌と弔詞が刻まれていた。しかし、この民族の壮絶な困難を背負った「挺身隊」という名前の慰安婦に対しては一言の言及もなかった。

罪悪相を隠すため資料隠ぺい

慰安婦問題がなぜこのようにおきざりにされてきたのか？ ひとつめの理由は私たち側の記録がないためであり、ふたつめに、挺身隊にされた女性がほとんど庶民層の出身であったばかりか、女性であるために男性中心の社会で無視されたからではないかとおもわれる。



最後に重要な理由は、日本が自ら犯した罪状が露見することを恐れて、あった資料を廃棄しただけでなく、当時将校であった吉田清治をのぞいて挺身隊の連行に関係した官吏たちが絶対に口を開かないためであろう。

筆者は一昨年8月、二度目に日本の北海道に行ったとき、そ

こで会った日本の住民と、徴用され生き残った朝鮮の男性、そして徴用兵の妻などの証言、当時の記録などを通じて朝鮮の若い娘たちが、すでに1910年頃に日本に渡ったが、騙されて日本人労働者や朝鮮人労働者を相手に売春を強要されていた事実を知ることができた。

日本は開港以後、資本主義に移行する過程で資本の蓄積に手段と方法を選ばなかった。

江戸時代から始まった北海道開拓、ロシア戦争で勝って得た利権である沿海州地方の伐採、その沿岸での漁獲、その時代のエネルギー源である採炭に必要な労働力が日本の男性だけでは途方もなく不足するや日本は、1910年朝鮮を併合して、朝鮮での土地調査、米増殖計画と共に、中国侵略と太平洋戦争を引き起こし、朝鮮人労働者の入国を厳しく阻んでいた1899年の則令を廃止した。

「自治連札幌」によると、1939年の朝鮮人強制連行数は、日本全国で5万2、120人であるのに、1945年には151万142人と記録されていた。

この時代に朝鮮女性たちも行ったのかどうか公式記録はない。しかし、「

北海道開拓受難者調査委員会」の委員の一人であるカタダセイジは彼女たちが来ていたという強い心証を持っていた。

一昨年の夏、札幌で会った焼肉屋「新生食堂」の主人金ダルソン氏（68歳、16歳の時徴用で狩り出された慶尚北道尚州出身）と奈井江の焼肉屋「南大門」の女主人李ジョンヘ氏（70歳、19歳の時、徴用された夫につづいて渡日）の証言、カタダ氏の調査、「自治連札幌」と「歴史教育者協議会松前サークル」の出版物、函館YMCAで会った国語教師浅利まさよし氏の資料を参考にすると、北海道に狩り出された朝鮮女性の状況はだいたい次のようなものだった。

朝鮮女性は当時朝鮮での生活が苦しく、お腹いっぱい食べて金が稼げるといふ日本人の言葉を信じて、一部は東海（日本海）を渡り北海道の函館、または小樽港に到着した。また、一部は玄海灘をこえて大阪の紡績工場の女工になった。しかし、彼女たちは地獄のような大阪の紡績工場を抜け出ても再び騙されて売春窟に陥ってしまうのだった。

浅利氏が提供した当時発行された「函館新聞」「函館日々」などによると、1920年に大阪の紡績工場で働いていた韓国女性が函館に来た記録がある。1921年には女性6人、男性100人が函館におり、朝鮮料理店が一カ所あった。

朝鮮女性は「周旋屋」（労働仲介人）に騙され、ここまで来たが、周旋屋は女性たちを自分の家において、仕事場を探すことができないように外部と遮断し、おいしいものを食べさせてから市内見学をさせた後、お金をたっぷりもらって遊廓に売ってしまったという。この頃に大阪や北海道に行った女性の大部分は15歳から20歳ぐらいであった。

売春を強要された多くの女性はこの落とし穴から到底抜けでる道がないと判断するや死を選んだ。一人で死んでしまったり、集団で多くが死んでいった。



日帝が強要した売春に耐えきれず多くの韓国女性たちが身を投げ自殺した函館の立待岬の絶壁。この住民たちは波の音が「オモニー、オモニー」と聞こえるという。

「オモニー」と泣き叫ぶ荒波の音

彼女たちが死の道に選んだのが「自殺の名所」になってしまった「立待岬」という絶壁だ。函館YMCAの紹介で、筆者の案内を引き受けてくれた池田ハルオ氏と一緒に、狭い坂道を過ぎて、たどり着いた絶壁は、陰しく荒々しかった。太平洋から押し寄せて来る荒波が砕ける絶壁の下には、荒波に打たれた岩が散らばっていた。その絶壁から一度落ちれば、生き残る道はないと見えた。

この村の人たちには、この絶壁に砕ける荒波の音が「オモニー、オ

モニー」と泣き叫ぶ声に聞こえると池田氏が話してくれた。

浅利氏が見せてくれた1923年12月18日付「函館新聞」には、「哀れな朝鮮美人の死、17歳」という記事があった。

この地で死んだ朝鮮人女性に関する記事は、数え切れないほど多かった。新聞には「日本人たちの過酷な虐待に耐えきれず抗議する女性たちが、服まで脱がされ道端に追い払われた」という記事もあった。

1935年6月20日付には「午前2時頃、髪を振り乱して半ば服を脱いだ女性が道端をさまよっているのを巡査が発見」という記事もあった。李バンス(20歳)というこの女性は、「貞徳寿」という料理屋にいたが、ろくに物も食べれない状態で、病気になっても薬も使えず、精神錯乱を起こしていた。

朝鮮女性自殺、報道禁止令

1941年、日本は太平洋戦争を起こし、朝鮮の若い男女を引っ張って行った。そうした中で多くの女性たちが続々自殺し、新聞は継続してこの事実を報道した。ついに1943年日本当局は、朝鮮女性の自殺を記事化するなという禁止令を出した。これより前、1940年頃からは、無断で家出をした女性たちを捜す記事が、求人広告欄を埋めつくし始めた。抱主たちは髪型、着ている服を描写し、逃亡した女性たちを捜し始めた。

1940年1月7日付「小樽新聞」には、次のような内容の記事があった。夕張炭坑には704人の半島人抗夫がいる。「遠く異郷で国策産業に従事する彼ら戦士を慰労するために、彼らが来る前からこれを推進したが、今般、協和寮近辺に三棟を開設し、朝鮮郷土料理店を経営することにした」ということだ。

「自治連札幌」38ページの「札幌での朝鮮料理店の変化」という題目を見れば、1920年代に、初めから朝鮮労働者相手の慰安婦を置く朝鮮料理店を開設したということだ。

この記録はまた、日本女性に実施していた公娼制度を、朝鮮女性には適用せずに、登録さえできなかったことを明らかにしている。売春を強要された朝鮮女性たちが、人権、賃金、衛生と厚生面で何の保護も受けられなかった事実を如実に語っている。1930年に入ってからには異常な事態が起きた。本来、札幌の朝鮮料理店は、朝鮮労働者のために5~6ヶ所建てられたのだが、日本の男性たちが朝鮮女性を好み、そこがそのまま日本人相手の料理店と変わってしまった。

1935年頃の警察発表によると、このような所は67ヶ所にもなるが、実際には100ヶ所を超えているだろうと、この記録は語っている。ここで働く女性たちは函館、あるいは小樽からきた女性たちで、日本語を上手に話すことができたという。しかし、彼女たちは朝鮮人には絶対に日本語を話さなかったという。

韓国女性たちがいる料理店が密集していたところは、豊平という通りに限定されていて、函館と同じように大きな大門が入口にあり、その中に立ち並ぶ料理屋が建っていたという。それで、今もこの場所は「大門通り」と言い、朝鮮料理店が集まっている所を「大門の朝鮮バー」と言ったという。

警察、朝鮮女性撲滅を企図

朝鮮女性は、日本男性に歓迎されたという痕跡が残っている。1935年1月27日付「北海道タイムス」によれば「青年層をむしばむ朝鮮女性を断固撲滅することを企図、札幌警察の強硬な態度」という題目の記事があった。このように日本当局は、朝鮮女性がなぜそこにいるのかは問わず、監視を強化した。

日本が戦争を拡大しながら、日本に住む朝鮮人に対しても朝鮮的な要素を撲滅しようと画策した。札幌の朝鮮料理店の名前を朝鮮的なもの、たとえば「トラジ」とか「アリラン」のような名前を使わせなくし、朝鮮女性が着ているチマ・チョゴリも強制的に日本の服に替えさせた。

カタダと浅利氏は、北海道開拓史を編集しているうちに、朝鮮人徴用関係と売春状況に関して専門家になったと言う。彼らは、ここの飛行場の底には朝鮮人の死体が敷かれていて、鉄道の枕木一本一本が、朝鮮の徴用夫と考えてもいいという。

そして、立待岬に飛び散る波の音を朝鮮女性の怨恨の声と聞かざるをえない。函館の住民たちは、北海道開拓に数えきれない多くの朝鮮人の男女が犠牲になったことを記憶していた。



2. 沖縄

沖縄は明治時代に薩摩藩主に征服されるまで、独立した琉球王国であった。征服された後には、薩摩藩とは差別され統治を受けた。日本の太平洋戦争敗戦後は、米軍下におかれたが、経済事情は日本統治時よりも困窮した。沖縄の人々は日本に帰ることを望んで、アメリカと日本は、アメリカの三軍を沖縄に駐屯させる条件で、沖縄を日本に復帰させた。

筆者が沖縄で出会った島の人々は、日本に対してよい感情を持ってはいなかった。敗戦直前に日本軍から受けた背信感、屈辱感、悔しさをいまだ解消できないでいるよ

うだ。このような感情が、韓国人である筆者に好感を抱かせたようであり、慰安婦と徴用夫に対しても同情的であった。また、韓国で起こっている学生デモ、人権運動などに対し深い関心を示した。若い人の中には沖縄の独立を夢みる人もいた。独立までは望まなくても、自分たちは日本人とは違う沖縄人であり、明治時代まで沖縄は王国であったという事実を強調していた。

朝鮮民族衰亡策のひとつ

1980年に次いで2度目、1988年2月にこの地を訪ねたときは、韓国教会女性連合会の金ヘウオン・金シンシル会員と一緒にあった。1980年に会った

ベ・ボンギ（75歳）ハルモニからもう少し話を聞いて、渡嘉敷島に安置されているという「ハルエ」という慰安婦の遺骨を持って帰国するためであった。それができないのであれば、ハルエの遺骨が実際にあるのか、ある場合、次の時に引き継ぎできるように手続きする計画であった。

朝鮮女性たちが日本軍の慰安婦に本格的に狩り出され始めたのは、日本が中国侵略を決定した1937年と推定される。関東軍の満州駐屯が長期化し、中国本土に多くの日本軍が投入されるにつれ、朝鮮女性の連行を思いついたのであった。

本来日本軍は日本の売春女性を慰安婦としていたが、軍隊内に性病が蔓延し、中国女性を強姦、輪姦したため性病に感染した。また、中国女性の中にはスパイもいた。

だからといって、日本軍隊が性病の恐れのない未婚女子を狩り出すことはできなかった。それで考え出された方案が、植民地朝鮮の17～20歳の未婚女性を連れて行くことであった。日本は、大部分が儒教を信じる朝鮮家庭が、娘たちに厳粛な貞操教育を施していることを知っていた。

次に朝鮮民族衰亡策の一つとして、未婚女性を慰安婦に使うことであった。民族を衰退させるためには、その民族の基盤となる家庭、その家庭の柱となる女性を破壊させることが、早道だと着眼したのだと、在日同胞金一勉氏はその著書「天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦」（1976年）で主張している。そこには女性は男性の慰安物であると考え、女性蔑視思想があったのである。従軍慰安婦政策は、日本の軍国主義、そして帝国主義思想と男性優位の女性蔑視思想がもたらした、国策だと考えることができる。

慰安婦1人が1日に100人も相手

慰安婦の需要は「ニクイチ」といわれ、日本軍人29人に朝鮮女性1人で計算されていた。しかし、日本敗戦直前には、慰安婦1人が1日に日本軍人を100人まで対応させられたという。1938年頃には、軍が直営する「陸軍娯楽所」を置き、慰安婦を監督したが、内外で物議をかもすや、日本人

(まれに朝鮮人もいた)ゼゲンに慰安所をまかし、軍はそれらを監督することとした。

慰安所を訪問する軍人には、いくつかの注意事項があった。その中のいくつかを紹介すれば、慰安婦と恋愛してはいけないこと、慰安所に入ると30分(あるところは40分)以上いてはいけないこと、コンドームを必ず使用すること、慰安婦は共同所有という考えを徹底して持つことなどである。日本軍にとって慰安婦は、共同便所と同じようなものであった。



人間忌避症にかかり1988年、筆者一行の面会を最後まで拒絶したベ・ボンギハルモニ(中央)。写真は筆者が1980年に会った時撮ったもの。

いまだ人間忌避症

沖縄那覇に住む「ベ・ボンギ」ハルモニはこのような苦痛を経て生き残った人だ。筆者一行が、那覇市の売春女性担当管理人高里すずよと共に、ハルモニを訪ねて行ったときは、前に住んでいた家より良いアパートに住んでいた。ハルモニはアパート内にいながら、私たちがいくら「ハルモニ」と呼んでも、高里が「ボンギさん!」と呼んでも、扉を開けてくれなかった。彼女が言うことによると、ハルモニは体も丈夫ではなく、依然として人間忌避症に陥っており、

朝総連系の金という女性の要請にのみ答えるのだとのことである。ハルモニの過去を考えると、1980年11月に、私に会ってくれたことだけでも感謝している。

ベ・ボンギハルモニが生まれたところは、以北の地、興南である。川田文子の「赤瓦の家」(1987年)というノンフィクションを読めば、1943年ハルモニが29歳の時、「口を開けていけばバナナが落ちて口にはいるところ」「お金をたくさん稼げるところ」に連れて行ってやると言う言葉に騙され、ある女性紹介人について行ったとのことだ。

私たちは1988年2月19日、沖縄那覇から西に55キロ地点にある渡嘉敷と座間味島を訪ねた。この島で私たちは高里の紹介で、沖縄の住民宮城初枝(66歳女)と彼女の知り合い2人、渡嘉敷島の旅館「チングシソ」の主人古波蔵ぜんき氏と彼のオモニ、そしてベ・ボンギハルモニが住んでいた「赤瓦の家」の主人の娘、中村初子(62歳)らと会い、当時の話を聞くことができた。

「赤瓦の家」の娘の回想

日本が太平洋戦争で苦戦し始めた1944年9月に、日本軍が渡嘉敷、座間味、阿嘉島に進駐し、10月10日には連合軍の激しい空襲が始まった。朝鮮女性たちは1944年11月に那覇に到着した。口を開けていれば食べもの



慰安婦たちが日本人の相手をした「赤瓦の家」

のが落ちてくるといふ楽園はどこにもなく、爆撃で建物は破壊され、皆が避難して誰もいない廃墟のみが彼女たちを待っていた。彼女たちは数日後には再び舟に乗せられ、渡嘉敷、座間味、阿嘉島に7人ずつ配置された。彼女たちが到着する直前、渡嘉敷の女性青年団は、日本軍を訪ねて慰安所設置に反対した。しか

し、この慰安所がこの地の女性たちを保護するためのものだという言葉に、簡単に説得されてしまった。

慰安所は村から離れており、沖縄の金持ちが主に住んでいる赤いレンガ屋根の良家に準備された。ベ・ボンギハルモニが配置された渡嘉敷島の家の主人は中村といい、同氏の娘の中村初子氏は、韓国女性は色白できれいで、体つきは細かったと言ひ、「キクマル」「ハルコ」といった彼女たちの名前も覚えていた。島の人々がくすんだ軍服とモンペをはいていたのに比べ、彼女たちは薄桃色、緑、薄青色の着物を着ていたので華やかで見え、10代、20代の若い女性だったのでスタイルが良かったとも語った。

29歳で狩り出されたベ・ボンギハルモニは、ここに辿り着いた時は30歳で、年のいった方だった。一番幼かった「ミッチャン」と「アイコ」はいつも泣いており、爆撃がひどくなるとみんなでアリランを唄って泣き、中でも「キクマル」は酒を飲みながら泣いた。

置いてきた子を思い泣く

筆者は初子にこの女性たちがだまされて、または強制的にひっぱって来られた女性たちであることを島の人々が知っていたかどうかと、「ハルエ」についてたずねた。彼女は島の人たちもみんな彼女らが職業的な売春婦でない

ことを知っており、「ハルエ」には教養があるように見え、日本語も少しできたと言った。

山谷哲夫氏の「沖縄のハルモニ」（1979年）によれば、結婚して子供がいた「ハルエ」は、歯をくいしばって軍隊食堂で働いてもうけて帰ろうと、子供を姑に預けて出てきた女性だった。「ハルエ」には人を引きつける力があつたのか、筆者が会った全ての人々が彼女を記憶していた。「ハルエ」をめぐる渡嘉敷島に駐屯していた将校と、慰安婦を引率してきた軍人の間で争奪戦が繰り広げられたが、将校が勝ったという。どうかして暇ができると「ハルエ」は主人の妻に身の上話をし、子供を思い出して挺身隊がこんな仕事だとは知らなかったといつも泣いていたという。

連合軍の爆撃は次第にひどくなり、1945年3月23日と24日の空襲は恐ろしかった。日本軍は島の人々に山に避難せよと命令した。この空襲で慰安所だった赤瓦の家も爆撃を受けた。日本軍は韓国徴用兵たちに塹壕を掘らせ、食糧が不足すると食べ物を盗ませたりした。

住民たちによるとこの島に引っ張って来られた朝鮮徴用夫のうち10人が1987年にこの地を訪れたという話だ。彼らは自らの同僚が日本軍に集団虐殺されたと記憶している地点、島の人々もそうだという地点を掘ってみた。思ったとおりそこから人の骨がたくさん出てきた。その場面は現地のテレビで放映された。朝鮮徴用夫たちは骨を掘り出した所に太極旗を立て、遺骨は本国に持ち帰ったという。

朝鮮語を使い、殺された徴用夫

日本軍は朝鮮人徴用夫も沖縄の人たちも、信じられなかったようだ。少しでもあやしいと思ったり、母国語を使う人には暴力を加えたり、手あたり次第殺したと言う。

「ハルエ」は1945年3月23日の空襲の時、負傷して山奥の塹壕に運ばれて死んでいるが、他の徴用夫も沖縄の人たちも日本の軍人も、多くが死に負傷した。地獄のような惨状に自らを失い、殺人を犯す者もいたとのことだ。古波蔵ぜんき氏は「日本の軍人は塹壕中に避難している沖縄の人たちを追いつき、そこに自分たちが入っていった」と語り、「汚いのは日本の軍人」と唇をかんだ。

渡嘉敷島の慰安婦の中ではベ・ボンギハルモニと「アイコ」だけが生き残った。徴用夫150人の中で何人が死んだのか、知るすべもないという。

渡嘉敷島にある高い山の頂には「青年の家」があり、その手前の右側の小道に入ると「白玉塔」が建っている。1962年3月27日に太平洋戦争で亡くなった犠牲者たちを安置して建てられたものだ。

山谷氏の「沖縄のハルモニ」によれば、渡嘉敷島の人々は、「ハルエの故郷の人たちが訪ねてきたら返そうと、彼女の遺骨をこの塔に安置した」と書

かれてある。しかし、私たちは塔に刻まれた名簿に「ハルエ」という名前を捜し出すことはできず、役所にも行ってみたが「ハルエ」だけでなく、慰安婦や徴用夫の遺骨が別個に処理されたという事実があるのかさえわからなかった。また、塔に記された数多くの名前のうち、はたして慰安婦と徴用夫の名前があるのかどうかもわからないのだった。

精神障害となって徘徊

ベ・ボンギハルモニは戦争が終わるや、日本軍と共に米軍捕虜収容所に収容された。

沖縄本土に再び集まった慰安婦は、この地の女性を保護するために、再び米軍相手の慰安婦とならねばならなかった。

ハルモニは米軍が上陸した時は、死ぬものとばかり思って絶望感に陥っていたという。それ以前には、爆撃の中で看護をしたり、ご飯をつくったり、洗濯をしたり、食べ物を求めて山中をさまよったり、弾薬を運んだり、夜には「慰安」したり、日本軍に酷使され気力が尽きていたが、死ぬという考えは起こらなかった。彼女は日本人の言う言葉をそのまま信じ、日本が勝ってこそ私たちも生きられ、米軍が上陸すればみんな惨殺されると思っていた。

那覇ではこんな話を聞いた。戦争が終わってしばらく後、その地の繁華街で一人の若い女性が万歳を叫ぶように両手をあげ、「私は朝鮮人よ！私は朝鮮人よ！」と叫んでいたというのだ。彼女は精神病院に収容中だったが、どういうわけか抜け出してそうやって自分の身元を明かしたというのだ。

戦後も生き残った大部分の慰安婦たちは、祖国の前途がどうなるのか国際情勢がどうなるのか、自分たちがなぜ狩り出され、こんな人間以下の侮辱を受けながらも生きなければならないのか、わからなかったという。

しかし、ここに登場する彼女のその叫びは、彼女たちの根源的な自我の中で息づいていた「朝鮮人」として、一人の人間として顔をあげ堂々と生きたいという望みを成し得なかった恨（ハン）、正気では語れなかったうっぶんを晴らした叫びではなかっただろうか。

3. タイ・ハッチャイ



太平洋戦争を日本は大東亜戦争と呼んだ。大東亜共栄圏を建設するための戦争という意味なのだろう。アジアから欧米帝国主義者を追い出し、アジアの各国を共に繁栄させるということなのだ。

共栄圏の外郭線は1942年2月28日、日本大本営政府連絡会議で決定された「新秩序を建設するための大東亜の地域」という地図によると、中国、ビルマ（ミャンマー）、スマトラ、ジャワ、ニューギニア、ソロモン、マーシャル諸島中部、太平洋の島々、日本などだ。

陸軍省「狩り」極秘通知

日本はアジアの国々をすべて自国より劣ると断定して「共栄」という名で欧米の手から奪い、自らの支配下に置こうと画策した。

戦争が拡大するとともに戦線が広まった。軍隊の士気と占領地の治安維持のために日本軍はすべての戦線に慰安婦を配置せねばと考えた。陸軍省は「聖戦のための大義親（朝鮮民族を指す）を減すく大義親を減す…君主や国家の大事のためには親、兄弟をもかえりみないという意」を施策だ」と付記した極秘通知を出し、朝鮮人女子を慰安婦に動員した。慰安婦の年を17歳から20歳の未婚女性に限定したが、しかし実際には年も、未婚の条件も無視した。

吉田清治は「私の戦争犯罪」（1983年）の〈第3話 済州道の慰安婦狩り〉で労務報国会の下関支部動員部長だった自分が、どのように慰安婦を「狩り」したのかを告白している。彼は済州市駐屯の日本陸軍の協力で11人の歩兵と軍用トラック2台を得た。

動員部長の戦争犯罪告白

1943年5月、この頃朝鮮の人たちは日本軍に連れて行かれると彼らの「飯」になるものと思っていた。吉田の徴用隊はまず初めにカッ（帽子）を作る家を襲撃して20～30人の女子の中から8人を引きずり出した。女性たちが悲鳴を上げると、壮健な朝鮮男子4～5人が道を塞いだ。剣を

差した銃を突き付けられても男たちは手を振り上げて朝鮮語で必死に抗議した。隊員たちが銃剣をつきつけたとき初めて男たちは逃げた。「アイゴー アイゴー」と泣き叫ぶ女性たちをトラックに押し込んだ。トラックが林の中に入って行った。吉田は徴用隊長の指示に従い隊員たちにいま狩猟してきた女性たちと「遊」ばせた。

ソンサン浦のボタン工場でのことだ。しきりに躊躇する社長をどなりつけ工場の中に入った。女工は30人程いた。徴用隊が“作業停止！”と叫ぶと女性たちは悲鳴を上げた。使えそうな女性を選んでいると、ある老婆が隊員の腕にしがみついた。横にいた他の隊員が老婆の頭の手拭いをわしづかみにし、頬を打った。妊娠しておなかの大きい女性のチマを上げて下着の中のおなかをのぞきこんだ。

年配の女工が吉田の所に行き「朝鮮の女をどうしようとするのか、朝鮮人も日本臣民じゃないのか」と日本語でくっつかかった。吉田は「戦争のためだ、じゃまするな！」とどなりつけ、その女工は朝鮮語で泣き叫びながら引き続き吉田に立ち向かって行った。吉田は彼女を押しつけて、他の徴用隊員が握りこぶしで彼女の顔を殴った。この工場での“収獲”は16人。

門の横で見守っていた社長は言葉もなく帰って行った。星を見ながら部隊本部に到着したとき、軍人たちは歓声を上げ女性たちを迎えた。

中日戦争を前後してはだまして、太平洋戦争が拡大してからは露骨に拉致して中国、タイ、ビルマ（ミャンマー）、太平洋の多くの島に引きずって行った。

1944年1月、朴キョンドという朝鮮人は中国の漢口にあるムハングルという遊郭を買って慰安所を作ることにした。朝鮮に来て10人を集めて漢口に行く途中、アメリカ軍の爆撃にあい11人全員が死亡したという。

挺身隊に連れて行かれた女性たちが満洲に行く途中で汽車から飛び降りて死に、あるいは太平洋の島に行く船から海に飛び込んで自殺したりした。それでのちには女性たちの足を鎖でつないだという。

鎖で足首をつないで連行

筆者が知るかぎり今まで生き残った人のうち自分が慰安婦だったという事実を公表したのは沖縄・那覇のベ・ボンギさんとタイ・ハッチャイのユユタ（70歳）さんだけだ。ユユタハルモニは身分が明らかになるのを避けるために中国名を使っている。

筆者は1988年8月北海道を経て、ユユタハルモニに会うためタイに向かった。



食堂「大衆茶室」のまえでユユタハルモニと夫のチェン・チャオ

バンコクに住む筆者の親戚が手配してくれた案内員チョンラクサの車に乗って女性公務員一人と一緒にハルモニの家を訪ねた。戸は閉まっており家には誰もいなかった。どうしようか迷っていると、隣の人がたぶん食堂にいるだろうと教えてくれた。

ハルモニが経営している食堂の名前は「大衆茶室」食堂の中は煙で煤んでいて黒くなっており、大きな仏壇が入口と台所の近くの2ヶ所に設置されていた。右側の壁にはユユタハルモニの夫の中国人チェンチャオさんの家族の写真が掛けられていた。彼は自分の家は銀行家の家系だと写真を説明しながら誇らしげだった。

ハルモニは身ざれいで健康そうに見えた。ハラボジはきれいな服を着ていた。動きはちょっとにぶそうに見えたが、上品でおとなしそうだった。ユユタハルモニが私を故郷の人だと紹介すると、コーヒーを飲んでいた食堂のお客たちが私を歓迎してくれた。

ハルモニは台所で働いていたチェンチャオの第2夫人を紹介して、その夫人の子どもたちも紹介してくれた。口数の少ない第2夫人はきれいな50代初めの女性だった。食堂は家族全員で切り盛りしているようだった。

筆者はコーヒーを御馳走になったが、その味がどうだったのか思い出せない。ハルモニは朝鮮語を全部忘れてしまったという。今はタイ語と中国語だけを話すという。1921年8月15日生まれで少女のときは髪の毛

が腰のところまで長かったが、タイに来て切ってしまったという。

ハルモニはしょっちゅう煙草を吸った。そしてベ・ボンギハルモニと同じく潔癖症のように見受けられた。どこにいくにも煙草と白くて大きなハンカチと巻紙になっているティッシュを持ち歩いた。

日本を発つ直前に東京で会った朝日新聞の記者、松井やよりさんが言った通りハルモニの家の部屋の正面には、小さな太極旗とハルモニのお母さんの写真があった。筆者が喜ぶと「太極旗」「オモニ」を指さしもし、夫に従って中国国籍を持つようになったと旅券も見せてくれた。

韓国語で故郷を聞くと口をふさぐ

ハルモニが心を開いてくれたように思って彼女に直接韓国語で故郷はどこかと尋ねると「遊びに行きましょう」と席を立ち煙草とハンカチ、ティッシュペーパーを持った。私たち一行は郊外に出て、海が見下ろせる高級食堂でたくさんのタイ料理を楽しんだ。

筆者はユユタハルモニが日本女性の松井には慰安婦時代のことを話しながら筆者には一定距離を保って、決して近づけないことをはっきりと感じとることができた。タイに発つ前に筆者は、韓国のテレビ局や新聞社がハルモニとの約束を破って報道してほしくないところまで報道したので不快感を持っていると聞いた。

最初に挺身隊慰安婦について記事を書いた千田夏光は筆者に、ユユタが会ってくれないか、会ってくれたとしても「従軍慰安」については話さないかも知れないと警告してくれたことがある。こういう予備知識があったので、筆者もやはりハルモニが話をしてくれるという期待はそれ程持っていなかった。ただ彼女に会ってどのように生きているのか見てみたかったのだ。

彼女は筆者が会いたいという話を聞いたときから、自分の私生活のある部分については話さないつもりだったらしい。22歳で国を離れた人が朝鮮



ユユタハルモニの過去について聞くと「遊びに行こう」と言って案内してくれた

ハッチャイ近郊の海邊の食堂。左から筆者、ユユタハルモニ・ハッチャイ市長議員。

語を忘れるはずがなく“遊びに行きましょう”と言った発音と抑揚は朝鮮人の完璧な韓国語だった。

松井さんに聞いたところによると、ユユタハルモニは慶尚道生まれで慰安婦になる前に結婚していた。実家も貧しく、嫁ぎ先もあまりにも貧しく、おまけに姑の虐待がひどくてハルモニは家を出て釜山の近くに住んでいた。井戸水を汲んで水瓶を頭の上に乗せようとしている時、日本の巡查4、5人が「ちょっと待て！」と叫んだ。驚いて水瓶を落とした拍子に一人の巡查の服を濡らしてしまった。蹴られ、打たれ、殴られ、結局引っ張られて行った。

1942年の秋、ハルモニが22歳のときだった。彼女はシンガポールとマレーシアで軍人たちの洗濯をし、幕舎を掃除し、弾薬を運んだ。また、夜になれば軍人たちの慰安婦にならなければならなかった。

松井さんは1984年11月2日付「朝日新聞」でこう書いている。

「朝から数十人を相手にしなければならぬ日もあった。少しでも反抗すると監督に殴られ、頭を掴まれ服も半分脱がされたままあちこち引きずり回された。人間以下の生活だった。」

日本の敗戦を知った時、朝鮮人慰安婦たちはお互いに抱き合って泣いた。しかし、ハルモニは故国の地を踏めない体ということを感じた。1年後、タイに渡ってきて飲食店で働いていたとき今の夫と会い結婚した。

“蓮の花に生まれ変わりたい”

筆者が2日間見たハルモニは強く肯定的に生きる人だった。ハルモニは松井さんに「泥水で育ち美しく香しい花を咲かせる蓮の花に生まれ変わりたいくて蓮花閣で結婚式を上げた」と語ったという。蓮花閣はハルモニの食堂の直ぐ横にある寺だ。

子どもを産めなかったハルモニは、夫に他の女性を迎えるようにさせ、今までひとつ屋根の下で仲良く暮らしている。

息子を3人も産んで先妻を礼儀正しく「おねえさん」と呼んで慕う第2夫人も偉いが、息子を産んでくれた若い女性と本当の妹のようにひとつ家で一緒に住むハルモニもただの人ではないと思った。

韓国のマスコミに対する拒否感も息子に苦痛を与えないための配慮からだという。

彼女は松井さんに“軍人は悪いが朝鮮人、日本人、タイ人、中国人みんなともだち”と言ったという。まさしくハルモニは「妹」の家族と、また他の親戚たちとも血の繋がった家族のようにして暮らしている。

筆者は地獄を生き延びて元々被っていた仮面を脱ぎ捨て命を愛し、人間

軍防空部隊指揮所」は漢字と英語で書かれ、「ラバウル政府建立」は英字、日本字、漢字で書かれてあった。

ラバウル戦争博物館にも、ここにも、誰がここで戦ったのか、展示されている武器が誰のものなのか全然言及されていないのはおかしかった。それでいて「ラバウル政府建立」の「ラバウル」がバプアニューギニア語ではない日本語で表示されているのだった。

これから察して、日本が戦後に建てたのは明らかなのだがこれをラバウル政府が建てたと表示してある理由が理解できなかった。ここで侵略戦争を引き起こしたという事実を隠蔽しようとする意図があったのではないかとということだけが推測できた。

付近の山の麓には死んだ日本軍人のための慰霊塔があった。正面右側には日本軍人ではない「戦死日本人の碑」という碑石がありその横には「世界人類が平和でありますように」と書かれた木の柱が立てられていた。ラバウルから随分離れた所には気が遠くなるほどよく手入れされた連合軍墓地があり、英国連邦が管理していた。

当時8歳の現地少年の記憶

太平洋戦争当時、バプアニューギニアはオーストラリアの信託統治を受けており、ラバウルの人口は1万人だった。今は独立国になったが、今もラバウルにはオーストラリアの銀行はあるが、バプアニューギニアの銀行はない。そしてどこにも現地住民の犠牲を哀悼する痕跡を発見することができない。

筆者はドイツ・タガウのユダヤ人収容所で、ドイツが戦争中に犯した罪に対して正直に認め、痛悔しているのを見た。筆者がラバウルで見た戦後の日本の態度はその後ろにどんな事情があるにせよドイツとは差があるように思われる。

2月24日、ホテルのフロントに第2次大戦中ここにいた老人に会うことができるかと尋ねてみた。翌日、ホテルの職員は筆者が捜す人が午後3時に訪ねてくるだろうと伝えてくれた。彼はブルナイという人で日本語を話すという。どれだけ幸いなことか知れない。

彼は5時頃になってようやく現れた。背は低いが体格の良い50代の男性だった。日本軍人慰霊祭を行うために、日本からきた人たち5人を空港まで見送りに出て遅くなったという。日本人は敗戦後45年間、毎年来ては自国の戦死者の慰霊祭を行っているという。

ブルナイの案内で車に乗って慰安婦と関連があると言われている場所を回ってみた。彼は8歳の時に父親と一緒に幕舎を掃除し、軍人たちの洗濯

をし、トイレの掃除をした。自分の目で慰安婦を直接見、彼女たちの生活と日本軍との関係を詳しく知っていた。その当時覚えた日本語を意思疎通が可能なほど今も覚えている。

海軍司令部は今は繁華街になっている村の中央に位置しており、慰安所はそのすぐ横に軒をなしていたという。

金一勉氏が書いた「天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦」によればココボにあった陸軍基地には軍人の数が海軍の倍もいたのに慰安婦の数は同じだったという。しかし、海軍とは仲が悪く、陸軍は自分たちに当てがわれた慰安婦だけで我慢していたという。

また同書11章「ラバウルの将兵と女」には「鉄砲玉と同じ速度で慰安婦が到着する」と慰安婦の供給が速やかに行われていたことを表しているが、事実日本軍は戦場で慰安婦が鉄砲玉の数ほどに絶対必要だったようだ。

ブルナイはおもしろい過去を思い出すかのように、軍隊が入ってくるとすぐ女性たちが後を付いて上陸してきたと笑いながら話した。女性たちは皆若く、日本の着物を着ていたという。彼は筆者に会うまではその女性たちが皆日本人だと思っていたという。

慰安所がない近くの軍人たちはラバウルに出向いて来たという。精一杯身づくろいをし、船から下りた彼らは列を作って行進したが、その光景は本当に見ものだたと彼は付け加えた。「天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦」によれば中国大陸には朝鮮人慰安婦が大半だったが太平洋の島々には日本人慰安婦も相当数いたという。

陸軍慰安所は兵士は午後4時まで、下士官は8時まで、将校は夜利用するようになっていた。慰安所施設が広がった海軍は施設自体にランクを付けて運営した。日本女性は士官だけを相手にし、朝鮮女性は士官がくれば相手するが原則的には兵士だけを相手にした。しかし日本女性は兵士が行っても相手をしてはくれなかった。

トラックに乗せ部隊巡回慰安まで

海軍には16歳の年若い少年突撃隊員もいた。彼らは帰ってこられないようにがたがたのエンジンに燃料を少ししか入れない飛行機で爆撃に出て行く運命だった。少年たちは出撃前夜になれば慰安所に行けという命令を受ける。そういう時には明日になれば死ぬのだと分かる。沖縄では同じ年頃の幹部候補生たちが爆弾を積んでアメリカ軍艦艇に向かって突進しなければならなかった。

権ビョンタク氏が書いた「慶良間列島」は、海岸付近の窟の中に隠して

関係を大切にする強い女性に会った感じがした。

このように肯定的に、開放的に生きるユユタハルモニを見ながら一方で沖縄で人間忌避症から閉鎖的に生きているベ・ボンギハルモニのことを思わずにはいられなかった。沖縄を発たなければならない1988年2月下旬のある日曜日の朝、筆者は一行と一緒に無駄足覚悟でベ・ボンギハルモニを再び訪ねた。

私たちは戸を叩きハルモニを呼んだ。中から声がして戸が開いた。ベ・ボンギハルモニだった。自己紹介してハルモニの安否を尋ねた。ハルモニはうるさいから行けと手を振った。玄関先の下駄箱の上に手をつけて立っているハルモニは目まいがするのかわ、体を前後にゆらゆらさせた。

「ハルモニ、このまま行きます。これは韓国から持ってきた人参茶です。受け取って下さい」「いない」ハルモニは手振りで私たちに帰れと行った。「お元気で、ハルモニ」と筆者は後ろに引き下がった。私たちがいつまでもいるとハルモニが倒れそうな気がしたからだ。

二人のハルモニの対照的な人生

筆者はハルモニが戸を閉めるとその場で泣き出してしまった。

川田（川田文子）さんの本を見るとハルモニは捕虜収容所を出た後、ひとつ所に腰を落ち着けることができず、沖縄をあちこちさ迷い歩いたという。その後那覇に落ち着くと、彼女の地獄のような過去が世間の知れるところとなりこのように人が訪ねてくるようになったのだ。来る人ごとに夢にも思い出したくない過去を掘り出そうとするのでベ・ボンギハルモニの心身が病んだのも、私たちをあれほど避けたのも当然だと思われる。

また、ベ・ボンギハルモニとは全然違う人生を生きるユユタハルモニも見た。しかし、ユユタハルモニのチェンスモーカーや必要以上の潔癖症は、過去彼女らが経た苦痛の後遺症のような気がしてならない。

どんなに資料を集め証言を聞いても、彼女たちが経た苦痛は私たちには想像もできないものなのかも知れない。

4. バブアニューギニア



バブアニューギニアの首都であるポートモレスビーに着いたのは1989年2月21日だった。

太平洋戦争時の日本の空軍基地があり、空軍7万人と陸軍14万人、そして朝鮮と日本の慰安婦が多かったというニューブリントン島のラバウルに行くためだった。赤道直下のことティッシュで汗を拭くと水の中から取り出し

たかのようにびっしょり濡れてしまう。

タクシー運転手にだまされ、ぶったくられるなどあらゆる経験をしてラバウルに到着したのが2月24日。25日にはアルバート・ブルーア牧師の案内でラバウルと近くのココボを回った。

博物館建て戦争隠ぺい

想像したより村は小さく、戦争は凄惨な模様だったようだ。村の中心にある郵便局の前とラバウル連合教会事務所の前、そして現在野球場に使われている所にはオーストラリア・ニューギニア宣教の歴史とオーストラリアにあるニューギニア女性団体が戦争（1942～1945）中に死んだ一般市民のために建てた記念碑があった。

村の中のラバウル戦争博物館には、太平洋戦争当時日本軍が使った大砲など錆びた金属が庭に陳列されていた。表示板は英語で書かれているが、唯一「ラバウル政府建立」という字の「ラバウル」は日本文字で、「政府建立」は漢字で書かれていた。

村から海が見下ろせる山頂には日本海軍指揮所があり、大砲、小型飛行機、そして鉄の塊などが展示されてあった。ここにも表示板があるが「海



ラバウルの海軍航空部隊指揮所があったところ。看板に「日本」という表記はないが「ラバウル」は日本語で書かれている。自分たちが侵略者であることを隠そうとしているようだ。またどれほど多くの人が犠牲になったのかについても説明がない。

置いた小さな船を韓国の徴用兵たちがひっぱり出して若い人たちを乗せて運んだが、唇が紫色に変わり、ぶるぶる震える少年も少なくなかったと証言している。

既に知れわたった事実だが、この少年たちと慰安婦に日本軍はヒロポンを与えた。日本の少年たちには恐怖感をなくさせるため、慰安婦たちには羞恥心をなくさせ、どんなことでも受け入れさせるためだったという。

金一勉氏の著書によればラバウルでの朝鮮人慰安婦は1日に90人を相手にした女性もいたという。食事をする時間もなく管理部の軍人が仕切りからお握りを入れてくれたというのだ。中国では戦場が広がるにつれ需要が増え、慰安婦をトラックに乗せて戦場から戦場へ回ったという。食べる時間も寝る時間もなく次の場所に行くトラックの中でほうりこんでくれるお握りを食べ、寝たという。このような極限状態の中で朝鮮人慰安婦と出撃が即、死を意味する陸海軍の少年たちはお互いをさらけだし人間と人間のふれあいを持つに至ったようだ。次の日、その少年が帰ってこない時、慰安婦は彼の死を悲しんで声をあげて泣いたという。そして名前を書いた紙を部屋の片隅に立て花を差し彼のことを忘れないでいたという。

ラバウルには連合軍の空襲が切れ目なく続き、村の慰安所は天井に穴が開いていて、その穴から空が見えた。戦争も頂点を迎える頃には爆撃がひどく軍隊と慰安婦が海岸線に沿って掘っておいた穴に逃げるほかなかった。この穴はシンガポールやマレーシアから連れてきた中国人やインド人、朝鮮の徴用兵たちが掘ったものと推察されるが、深さもあり、幅も長かった。



慰安婦たちが爆撃を避け、一時住んでいたラバウル海岸のほら穴。
このような穴が海岸に数多くある前に立っているのがブルメイさん

機関銃で集団射殺

1989年の夏タイ・バタヤで開かれたある国際会議でバプアニューギニア代表は自分がまだ小さかった頃、戦争が終わる直前、穴の中に慰安婦がいるのを出入口を塞ぎ爆破させたという話を聞いたことがあると述べている。

筆者が目撃した穴からは、そんなことがあったのか確認することは出来なかったが、穴や、塹壕を爆破させるのは敗戦後日本軍がよく使う手法だ。

この間収集した資料と証言によれば日本軍は上部命令によって、あるいは敗戦の噂を聞いて朝鮮人慰安婦を現地に置き去りにして自分たちだけ逃げるため、連合軍の空襲があるからと女たちを塹壕に集めて爆破し、洞窟に隠れている慰安婦に出てこいといったのは機関銃で射殺するなどの蛮行を日常茶飯事のごとくはたらいた。

日本軍がこのように残忍な方法で朝鮮人慰安婦を殺したのはもちろん彼らの蛮行を隠すためだった。同時にいわゆる「皇軍」（天皇の軍隊）の中に女性を置かないという鉄則が見かけだおしであったことを、そして朝鮮民族滅亡策の一つとして朝鮮女性を滅ぼそうとした陰謀が暴露されるのを恐れたからだ。

今は1990年1月、あと10年で21世紀だ。「解放」され45年が過ぎても、徴用兵として連れて行かれたこの国の男たちが頭の白い老人になっても家族に会うことができず外地で生きてきた。こういう事実にも気が滅入るが、挺身隊慰安婦についてはいままで論議されたこともない。沖縄のベ・ボンギハルモニとタイのユユタハルモニのように慰安婦だったハルモニたちがどこかで生きているのだ。

「非命の死」、再照明を

生き残りはしたけれど、自分の体が汚れているのに どうして故郷の地を踏むことができるだろうかと、今も他国で生きている彼女たちを私たちは捜し出し、残った日々を堂々と故郷で過ごせるようにしなければならない。その前提として、女性の性に対する観念を徹底的に変える社会的意識改革が先行されなければならない。

そして自ら願って行ったのではなく、植民地民族のくびきを担って強動員された慰安婦がもつ歴史的意味を明らかにし、公的、歴史的に整理しなければならないのではないかと。いまやすべての歴史叙述を是正しなければならない。

慰安婦や徴用兵の事を考えると日本に対する恨が空を突き刺すようだが、日本人のなかでも過去を反省する良心を持った人たちがたくさんいることも知っている。彼らの助けで少しずつではあるが慰安婦たちの苦痛の足跡をたどることができた。

朝鮮侵略による民族的侮蔑を忘れてはいけませんが、感情的に日本を憎むだけでは問題解決にはならない。どのようにしてでも日本の良心勢力と政府当局の協力を得て、この問題を明らかに整理することは慰安婦たちに対する私たちの責任であり、歴史を前に進めることになる。このことに日本が協力する時、日本も過去から、戦争犯罪から解放されるものと信じる。

＜終＞

訳責：在日韓国民主女性会

공 개 서 한

노태우 대통령 귀하

우리는 지난 6월8일 일본국회의 '참의원예산위원회' 회의록을 통해 정신대관련 철의유박을 보고 경악을 금치 못했습니다. 수차례의 질문내용을 요약하면 다음과 같습니다.

일본사회당의원 도모오카 쇼오지 (질) : '강제연행중에 종군위안부가 있었는데 그것이 사실인가? 그렇다면 정부는 진상을 규명해라'

노동성직업안전국장인 정부위원 시비즈 (답) : '징용대상 업무는 국가 총동원법에 기초한 업무이며 법률상 각호 열거 되어있는 업무와 종군위안부의 업무와는 관계가 없다.' '종군위안부에 관해서 옛날 사람들의 얘기를 종합해 보니 민간업자들이 그러한분들을 군과 함께 데리고 있었었던 것 같은데, 이것의 실태에 대해서 조사하여 결과를 낸다는 것은 솔직히 말해서 할수 없다.'

정신대는 일본제국주의의 가장 잔인한 민족 말살정책의 하나로 이방의 여성들을 강제징집, 연행하여 일본병사의 위안공로 이용한 역사상 유례없는 비인간적인 행위였습니다. 정신대로 끌려간 한국의 젊은 여성들은 하루에 수십명을 상해하다가 죽어갔는가 하면 일본의 재건으로 전쟁터에 버려지거나 증거를 은폐하기위해 집단학살의 최후를 맞아야 했습니다.

이러한 사실들은 소수지만 양심적인 증인들과 생존자들에 의해 이미 밝혀진 사실들입니다. '친황'의 직속이었던 일본군의 요청에 의해 '조선인 여자 정신대'의 동원명령을 받고 제주도나 시모노세키등지에서 조선인 여성을 징용하는 업무를 맡았던 그 당시 노무부국회 동원책임자의 증언¹⁾ 이나 위안부의 성병검사를 담당한 군의관의 증언²⁾ 또 육군의 '위안소 규정'을 찍은 사진자료도 증거로 남아 있습니다. 그러므로 종군위안부를 동원하는 업무가 징용의 대상업무에 포함되고 있었다는 것은 명백한 사실입니다.

이외감이 응적일 수 없는 증거가 있고 이들의 돈이 아직도 원한에 사무쳐 머물고 있는데 36년간 한국의 보문것을 착취해 가고도 모자라 이방의 딸들을 일본군의 성취처리의 도구로 사용했습니다. 그런데도 불구하고 해방된지 45년이 되는 지금까지도 일본정부는 여기에 대해 후회의 반성도 없이 아직까지도 이러한 부책임한 발언을 하고 있습니다. 그것도 지난 5.18 노태우 대통령 일본방문에 즈음하여 낸 여성계의 정신대 관련 성명서기 나온뒤에 이런방언이 일본의 공식입장으로 나온것에 대해 우리정부는 무엇을 하는지 심히 유감을 표하는 바입니다.

우리는 정부가 과연 자주적인 주권국가로서 일본과의 외교관계를 맺음에 있어서 상호선언과 이해관계에 입각해 있다면 어찌 작금에 이런 사내를 이 지경이 되도록 모르고 있었는지 혹시 알았다면 어째서 그대로 방치하고 있는지 엄중히 묻습니다.

이에 우리여성들은 도저히 이 사실을 묵시할 수 없어 우리 정부에 항의하는 바이며 동시에 다음과 같이 요구합니다.

1. 정신대란 이름하에 한국의 여성들을 전쟁위안부로 짓밟았던 일본으로부터 시죄를 받아내야 합니다.
2. 한국정부는 정신대문제에 대한 진상규명을 적극적으로 해야만 합니다.
3. 정부는 한국내에 위령비를 건립하고, 일본으로부터 정신대로 인한 피해보상을 받아내도록 최선을 다해야 합니다.
구체적으로 첫째, 살아있으면 본인에게 보상하도록 해야 합니다.
둘째, 만일 사망했으면 희생자의 유가족을 찾아 보상해야 합니다.
4. 이것을 위해 그동안 불평불만하고 다소 굴욕적으로 유지되어온 한.일 외교관계를 자주 평등 외교로 전환해야 합니다.
5. 정부는 일본의 우리역사에 대한 왜곡을 정정하게 하고 우리도 역시 정신대물 역사에 명기해야 합니다.

우리 여성계는 앞으로의 정부의 실천을 지켜볼 것입니다. 11월 30일까지 성의 있는 답변을 기대합니다.

註: 1) 吉田清治『朝鮮人慰安婦と日本人』新人物往来社、1977年.

同 上『私の戦争犯罪』三一書房、1983年.

2) 麻生徹男氏の証言

金一勉編『戦争と人間の記録・軍隊慰安婦』現代史出版会、1977年. 所収

麻生徹男「花柳病ノ積極的予防法」昭和14年6月26日

高崎隆治編・解説『軍医官の戦場報告意見集』不二出版、1990年. 所収

添付資料参照

1990년 10월 17일

한국교회여성연합회

한국여성단체연합

두레방

대한YWCA연합회

서울지역여대생대표자협의회

아시아여성신학교육원

이화여자대학교여성학연구회

정신대연구회

*수신처 참조 : 국무총리, 외무부, 국회외무통일위원회, 평민당총재, 민자당총재,
민주당총재.

公 開 書 簡

盧泰愚大統領貴下

私たちは去る6月6日の日本国会の参議院予算委員会会議録を通じて、挺身隊関連質疑応答を見て驚愕を禁じ得ませんでした。数回の質問内容を要約すると次のようです。

（質問）日本社会党 本岡昭次：強制連行中に従軍慰安婦がいたと言うがそれは事実なのか？ そうであるなら政府は真相究明をしろ。

（答弁）労働省職業安定局長 清水：徴用対象業務は国家総動員法にもとづく業務であり、法律上各号列記されている業務は従軍慰安婦の業務とは関係ない。従軍慰安婦については古い人の話を総合してみると、民間の業者がそういう方々を連れて歩いていたようで、その関係については実情を明らかにすることはできかねる。

挺身隊は日本帝国主義の最も残忍な民族抹殺政策の一つとしてこの地の女性たちを強制徴集、連行して、日本兵士の慰安物として利用した歴史上類のない非人間的な行為でした。挺身隊に連れて行かれた韓国の若い女性たちは一日に数十名を相手にして死んで行ったり、日本の敗戦で戦場で捨てられたり、証拠を隠ぺいするための集団虐殺の目に合わなければなりませんでした。

このような事実は少数ではありますが良心的な証人や生存者によって、既に明らかになった事実です。“天皇”の直属だった日本軍の要請によって、「朝鮮人女子挺身隊」の動員命令を受け、済州島や下関などで朝鮮人女性を徴用したという元労務報国会の動員責任者の証言や、慰安婦の性病検査を担当した軍医官の証言、また、陸軍の「慰安所規定」を撮った写真資料も残っています。従って、従軍慰安婦を動員する業務が徴用の対象業務に含まれていたということは明らかな事実です。

このような動かしがたい証拠があり、彼女らの魂がいまだ怨恨にうち震えているというのに、36年間朝鮮の全ての物を搾取していっても足りず、この地の娘たちを日本軍の性的処理の道具として使いました。にもかかわらず、解放されて45年になる今も日本政府はこれに対し、なんら反省もなく、この期におよんでもこのような無責任な発言をしています。それも去る5・18盧泰愚大統領の日本訪問に際して出した女性界の挺身隊関連の声明の後に、このような発言が日本の公式発言として出たことについて、

わが政府がどのような態度表明をしているのかと遺憾の意を表明するものです。

私たちは政府が、自主的な主権国家として日本との外交関係を結ぶに当たって相互善隣と互惠和平に立脚するならばどうしてこのような事態になるまで知らないでいたのか、あるいは知っていたとするならどうしてそのまま放置しているのかを嚴重に尋ねます。

これに私たち女性たちはとうてい座視することは出来ず、わが政府に抗議するものであり、同時に次のように要求します。

1. 挺身隊の名の元韓国の女性たちを戦争慰安婦として踏みにじった日本政府から謝罪を受けること。
2. 韓国政府は挺身隊問題に対する真相究明を積極的に行うこと。
3. 政府は韓国内に慰霊碑を建立し、日本から挺身隊による被害補償を出させるように最善を尽くすこと。

具体的には、第一に、生存する本人に補償をすること。

第二に、遺族を捜し、補償すること。

4. そのために、この間不平等で屈辱的に維持されてきた韓・日外交関係を自主・平等外交に転換させること。
5. 政府は日本のわが歴史に対する歪曲を是正させ、わが国もやはり、挺身隊を歴史に明記すること。

私たち女性界は今後政府の実践を見守ることでしょう。

11月30日までに誠意を持ってご返答くださるよう期待します。

1990年10月17日

韓国教会女性連合会

韓国女性団体連合

トゥレバン

大韓YWCA連合会

ソウル地域女子大生代表者協議会

アジア女性神学教育院

梨花女子大学校女性学研究会

挺身隊研究会

付記：この公開書簡は下記宛にも送付します。

国務総理、外務部、国会外務統一委員会、平民政総裁、

民自党総裁、民主党総裁

訳責：在日韓国民民主女性会

공 개 서 한

内閣総理大臣 海部俊樹閣下

우리들은 지난 6월 6일에 귀국참의원 예산위원회에서 있었던 종군위안부에 관한 답변내용을 '참의원 예산위원회 회의록 제19호'를 통해서 읽었습니다. 그것에 의하면 사회당의 本岡昭次 씨가 강제연행에 관련하여 종군위안부에 대한 조사를 정부에 요청한데 대해 답변을 한 노동성 직업안정국장 清水傳雄씨는 '징용의 대상 업무는 국가총동원법에 기초한 총동원 업무이며 법률상 각호열거 되어있는 업무와 종군위안부의 업무하고는 관계가 없다.' '종군위안부에 관해서 옛날사람들의 얘기를 종합해보니 민간업자들이 그러한 산물을 군과 함께 데리고 있었던 것 같으며, 이것의 실행에 대해서 조사하여 결과를 낸다는 것은 솔직히 말해서 못한다.'고 말하고 있습니다.

우리들은 귀 정부측의 이러한 답변내용이 역사적 사실에 반하며, 또 전쟁을 일으키고 많은 희생을 낳게 한 전쟁가해국의 정부로서 무책임한 발언이라고 생각하고 여기에 항의하는 공개서한을 보내는 바입니다.

오늘날까지 종군위안부에 관한 역사를 발굴하는 작업은, 일본군에 의한 증거인멸과 전쟁책임에 대한 일본정부의 암성실한 태도, 또한 '위안부'에 대한 사회적편견등에 의해서 별로 진행이 안되어 왔습니다. 그러나 몇몇의 용기있는 증언이나 남아있는 자료를 통해서 그 실행의 일부는 밝혀지고 있습니다.

그속에는 '천황'직속의 일본군의 요청에 의하여 위안부용으로 '조선인 여자 정신대'를 동원하라는 명령을 받고 제주도나 시모노세키(下関)의 조선인여성들을 징용했다고 하는 그 당시 노동부보국회의 동원 책임자의 증언¹⁾도 있습니다. 그러므로 종군위안부를 동원하는 업무가 징용의 대상업무에 포함되고 있었다는 것은 명백합니다.

위의 증언과 당시 위안부였던 사람들의 얘기에 의하면 조선인 여성들은 '여자 정신대'라는 이한으로 또는 잡역부라고 속아서, 또는 논밭에서 일하는 중에 사탕사냥을 당하듯이 연행되어 각 전쟁터에 설치된 군대위안소의 위안부로서 일해야 했다고 합니다. 이러한 강제연행이 총동원업무로서 기술이 안되었다면 그것이야 말로 일본군이 이 만행을 은폐하려고 했던 증거가 아니겠습니까.

그 당시의 군의의 증언²⁾에 의하면 위안소구정을 정하고 성병검사를 하는 등 위안소의 관리하는 군이 했다고 합니다. 그리고 무엇보다도 위안소를 이용한 것은 일본군 인물이며 이 죄는 엄격히 규탄을 받아야 합니다.

이상의 증거에 의해서도 정부의 답변은 밝혀지고 있는 사실을 무시한 것이며 이러한 사실을 본받더라도 그것은 일본정부가 강제연행에 대한 조사에 성의가 없다는 것을 나타내고 있습니다.

전쟁중 일본은 많은 젊은 조선인여성들을 속여서 강제로 끌고가 병사들의 성화처리
의 도구로 하는 비인간적인 짓을 하고 괴롭히었습니다. 그리고 패전후는 그때까지
의 '대전일제'를 뒤집어 놓고 조선인 중군위안부를 죽이고나 버리고 왔으며, 생존자
에 대해서는 오늘날까지 아무 보상도 안한다는 그들의 괴롭힘 짓고 왔습니다. 지난
5월 일왕(日王)이 과거의 양국관계에 대해 '을 금할 수 없다'고 말하며 불충분
하나마 반성의 뜻을 표명하고, 일본정부가 '조선반도에서 연행되어온 모든사람'들의
조사를 한다고 표명한 직후, 중군위안부와의 관계를 부정하고 조사를 거부한다는 것은
또다시 괴롭힘 짓는 것입니다.

그러한 의미에서 우리들은 일본정부에 대하여 다음과 같이 요구합니다.

1. 일본정부는 조선인 여성들을 중군위안부로서 강제연행한 사실을 인정할 것.
2. 그것에 대해 공식적으로 사죄할 것.
3. 전쟁의 진모를 스스로 밝힐 것.
4. 희생자들을 위하여 위령비를 세울 것.
5. 생존자와 유가족에게 보상할 것.
6. 이러한 잘못을 괴롭힘이 하지 않기 위해 역사교육에서 이 사실을 가르칠 것.

이렇게 하므로써만 일본은 이 죄로부터 해방되어 진정한 도의를 갖춘 민주주의 국
가모 되는 것입니다.

한국 여성계는 앞으로의 일본정부의 실천을 지켜볼 것입니다.

11월 30일까지 정의있는 답변을 요구합니다.

註: 1) 古田清治『朝鮮人慰安婦と日本人』新人物往來社、1977年.

同 上『私の戦争犯罪』三一書房、1983年.

2) 麻生徹男氏の証言

金一勉編『戦争と人間の記録・軍隊慰安婦』現代史出版会、1977年、所収

麻生徹男「花柳病ノ積極的予防法」昭和14年6月26日

高崎隆治編・解説『軍医官の戦場報告意見集』不二出版、1990年、所収

添付資料参照

1990년 10월 17일

한국교회여성연합회

한국여성단체연합

주예명

대한YWCA연합회

서울지역여대생대표자협의회

아시아여성신학교육원

이화여자대학교여성학연구회

정신대연구회

*수신지 참조: 참의원외장, 중의원외장, 노동대신, 후생대신, 외무대신, 자민당,
사회당, 공산당, 공명당, 민사당, 사민당 각 당수, 주한일본대사.

公 開 書 簡

内閣総理大臣 海部俊樹貴下

私たちは、去る6月6日に貴国参議院予算委員会で行われた従軍慰安婦についての答弁内容を『参議院予算委員会会議録第19号』を通して知りました。それによれば、社会党の本岡昭次氏が強制連行に関連して従軍慰安婦の調査を政府に要請したのに対し、答弁に立った労働省職業安定局長清水傳雄氏は「徴用の対象業務は国家総動員法に基づく総動員業務であり、法律上各号列記されている業務と従軍慰安婦の業務とは関係がない」「従軍慰安婦については古い人の話を総合してみると、民間の業者がそういう方々を連れて歩いていたようで、その関係については実情を明らかにすることはできかねる」と述べております。

私たちは、この政府側の答弁内容が歴史的事実と反し、かつ戦争をひき起こして多大の犠牲を生み出した戦争加害国の政府として無責任な発言であると考え、ここに抗議の公開書簡を送る次第であります。

これまで従軍慰安婦に関する歴史の掘り起こし作業は、日本軍による証拠の隠滅や、戦争責任に対する日本政府の不誠実な態度、また「慰安婦」たちへの社会的偏見などによって遅々とした状況にあります。それでも何人かの勇気ある証言や資料を通して、その実態の一部は明らかにされております。

その中には“天皇”直属の日本軍の要請で慰安婦用に「朝鮮人女子挺身隊」の動員を命ぜられ、濟州島や下関の朝鮮人女性を徴用したという元労務報国会の動員責任者の証言もあります。この証言からも、従軍慰安婦を動員する業務が徴用の対象業務に含まれていたことは明らかです。

また上の証言や元慰安婦たちの証言によれば、朝鮮人女性たちは「女子挺身隊」という名で、あるいは雑役婦の仕事だとだまされて、さらには田畑で働いているところを人狩りしながら連れて行かれ、各戦場に設けられた軍隊慰安所の慰安婦にさせられたといえます。このような強制連行が総動員業務として記されなかったとすれば、それこそ日本軍がこの蛮行を隠蔽しようとした証拠ではないでしょうか。

さらに元軍医の証言によれば、慰安所規定を設け、性病検査をするなど、慰安所の管理そのものは軍が行ったといえます。そして何よりも慰安所を利用したのは日本軍人たちであり、その罪は厳しく問われなければなりません。

以上のことから、先の政府答弁はすでに明らかにされている事実を無視したものであり、仮にこうした事実を知らなかった上での発言だとしたら、それは日本政府が強制連行の調査に対して誠意がないことを表しております。

戦争中、日本は多くの若い朝鮮人女性たちをだまして強制的に、連行して兵士たちの性欲処理の道具にするという非人間的な行いをして罪を犯しました。そして敗戦後は、

それまでの「内鮮一体」を翻して朝鮮人従軍慰安婦を殺したり置き去りにし、わずかな生存者に対してはこれまで何の補償もしないという二重の罪を犯してきたのです。去る5月、日王が過去の両国関係について「痛惜にたえない」と述べ不十分ながらも反省の意を表し、日本政府も「朝鮮半島から連行されたすべての人」の調査を行うと表明した直後に、従軍慰安婦との関わりを否定し、調査を拒否する発言をするということは再び罪を重ねる事にはなりません。

そのような意味から、私たちは日本政府に対して次のように要求します。

1. 日本政府は朝鮮人女性たちを従軍慰安婦として強制連行した事実を認めること。
2. そのことについて公式に謝罪すること。
3. 蛮行のすべてを自ら明らかにすること。
4. 犠牲となった人々のために慰霊碑を建てること。
5. 生存者や遺族たちに補償すること。
6. こうした過ちを再び繰り返さないために、歴史教育の中でこの事実を語り続けること。

そうしてこそ日本は、この罪から解放され真の道義を備えた民主主義国家となることができるのです。

私たち韓国の女性界は日本政府の今後の実践を見守って行きたいと思います。

11月30日までに誠意あるご返答を要求します。

1990年10月17日

韓国教会女性連合

韓国女性団体連合

トゥレバン

大韓YWCA連合会

ソウル地域女子大生代表者協議会

アジア女性神学教育院

梨花女子大学校女性学研究会

挺身隊研究会

付記：この公開書簡は下記宛にも送付します。

参議院議長、衆議院議長、労働大臣、厚生大臣、外務大臣、
自民党、社会党、共産党、公明党、民社党、社民連の各党首、
駐韓日本大使

訳責：在日韓国民主女性会



国会図書館に所蔵されていたGHQの朝鮮人名簿 (同図書館のマイクロフィルムから)

GHQ資料に朝鮮人名簿

沖縄戦捕虜の1600人分

従軍慰安婦か
女性の名前も

朝鮮人捕虜名簿

実態調査を 首相が約束

国立国会図書館が所蔵している連合国軍総司令部(GHQ)の資料の中に、

沖縄に連行された慰安婦と見られる朝鮮人女性を含む約千六百人の朝鮮人捕虜名簿が見つかった問題が一日の参院予算委員会取り上げられ、海部首相は「真実を明らかにしたい」と実

態調査を約束した。

本岡昭次氏(社会)の質問に対して、労働省の若林之矩、安局長は「当時の厚生省勤務局などの関係者が、事情を聴いたが、慰安婦についてはまったく関与し

ていなかった」と、政府としての関係を否定した。しかし、海部首相は「日韓の首脳会談で率直に反省の意を表明している。未来志向型の関係に移っていくためにも、過去の問題については出来る限り調査をしたい」と答えた。

4月2日付朝日新聞

国立国会図書館が所蔵している連合国軍総司令部(GHQ)の資料の中に、沖縄戦で捕虜になった女性を含む朝鮮人の名簿約千六百人が含まれていることが三十一日、明らかになった。この資料を分析している本岡昭次参院議員(社会)事務所によると、朝鮮人女性の名前が含まれている軍人家族名簿が見つかったのは初めてという。同事務所は「従軍慰安婦ではないか」とみており、本岡氏は一日の予算委員会、政府に実態調査を求める予定。

この名簿は「戦争捕虜名簿」と題し、一九四六年二月十四日付で米軍の沖縄基地司令官から太平洋軍総司令官にあつた文書。朝鮮人捕虜千五百八十七人の名前が並び、米国の国立公文書館に保管されているGHQ資料の中から、日本の国会図書館がマイクロフィルムに収めていた。名簿はローマ字表記で、本岡事務所が調べたところ、末尾の番号により女性と確認できる名が五十一人。女性と見られる名が四

十七人含まれていた。日本では初めて朝鮮人従軍慰安婦の記録を出版した千田夏光氏によると、沖縄に朝鮮人が送られたのは、戦地補給の必要が高まった一九四四年夏のサイパン陥落の後、この時期に女性

「我々の調査を要する資料である可能性が高い。この名簿に基づいて調査を進めれば、従軍慰安婦の実態がはっきりするはずだ」と語っている。これまで、朝鮮人従軍慰安婦の存在は確認されているものの、実態については一部の証言があるだけで明らかになっていない。日本政府は国会の答弁などで、「国家機動員法に基づいて朝鮮人を徴用したが、慰安婦は民間業者が連れて行ったので調査できない」との立場を取ってきた。

海部首相は挺身隊問題の約束を守れ

日本帝國主義の朝鮮植民地時代に、強制的に女子でい身隊に引く強いられた朝鮮女性の名簿が一部ではあるが、明らかに二つに分かれている。一つは身隊に引く朝鮮女性の名簿で、もう一つは身隊に引く朝鮮女性の名簿で、明らかに二つに分かれている。

これによって、これまで日本政府は「民間企業」が軍とともに進出したようなもので、日本政府が調査するところではない、と逃げ回りをしていたが、身隊は日本政府によって動員されたという事実が露見されたことにな

る。韓国女性が中韓に送られたのは、中韓に朝鮮女性の必要が生じた一九四四年の夏で、この時期に朝鮮女性以外の女性を送り込まれたという日本の専門家分析が、この事実を裏付けている。

この頃、韓国と日本の良心勢力とてい身隊動員関係者によって明らかになった事実だ。海部首相は「民間企業」が軍とともに進出したようなもので、日本政府が調査するところではない、と逃げ回りをしていたが、身隊は日本政府によって動員されたという事実が露見されたことにな

本論

日本帝國主義の朝鮮植民地時代に、強制的に女子でい身隊に引く強いられた朝鮮女性の名簿が一部ではあるが、明らかに二つに分かれている。一つは身隊に引く朝鮮女性の名簿で、もう一つは身隊に引く朝鮮女性の名簿で、明らかに二つに分かれている。

これによって、これまで日本政府は「民間企業」が軍とともに進出したようなもので、日本政府が調査するところではない、と逃げ回りをしていたが、身隊は日本政府によって動員されたという事実が露見されたことにな

る。韓国女性が中韓に送られたのは、中韓に朝鮮女性の必要が生じた一九四四年の夏で、この時期に朝鮮女性以外の女性を送り込まれたという日本の専門家分析が、この事実を裏付けている。

この頃、韓国と日本の良心勢力とてい身隊動員関係者によって明らかになった事実だ。海部首相は「民間企業」が軍とともに進出したようなもので、日本政府が調査するところではない、と逃げ回りをしていたが、身隊は日本政府によって動員されたという事実が露見されたことにな

従軍慰安婦の実態解明望む

東京都 李 安子

(主婦 43歳)

国会図書館所蔵の連合国軍司令部(GHQ)の資料に、朝鮮戦中の捕虜の中に女性を含む約千六百人の朝鮮人名簿が見つかり、実態が明らかにされていない「女子挺身(ていしん)隊」という名で狩り出された従軍慰安婦の一部ではないか、との一日付本紙報道を読んだ。

千田夏光著の「従軍慰安婦歴史」によると、太平洋戦争期間中の三年間、若い朝鮮婦人約二十万人が動員され、うち五万人ないし七万人が慰安婦にされたという。

儒教精神の根強い朝鮮で挺身隊に狩り出された女性たちは、たとえ生き残っても身元を隠し、自国においてもひっそりと暮らさねばならないという二重の被害者なのだ。

四十六年の長い年月がかかったが、名簿の一部が明らかにされたことに胸が熱くなる。歴史は必ず正しく解明されるであろう。その時こそ多くの犠牲者の魂が安らかに眠る日だと思ふ。一日、参院予算委員会で、この問題について問われ「真実を明らかにしたい」と答えた首相の言葉に期待したい。

韓国・沖縄合同慰霊祭

第二次大戦中に日本軍に強制通行させ、捕縛や殺害した日本人に殺害された朝鮮人軍属と「慰安婦」の間に在る民間人の犠牲は、決して小さくない。戦時中、日本軍は、朝鮮半島を占領したため、韓国が対立する国家と見做され、日本軍は朝鮮人を人々とせず、元来、民にもあてまつっていなかった。公式の謝罪と補償をめぐる争いももたらした。その意味は、神道教の論の部分で述べた通りである。

株式会社 日本経済新聞社 印刷部印刷 印刷部印刷 印刷部印刷

薩摩藩と薩摩味で、一
 は薩摩藩者の區かい出で
 えを受け、異例の文藝者
 も感服させた。新嘉坡に
 同村長ほか役所職員が参

た県内の支店等とを以て一諸国・市町村明細表第一を行い、世帯の標準的な状況に照して、世帯を階級別に入す。昭和への移行を期して

国境
い

統計
調査
調査

1990

国境超え平和誓う

いやされない民族の痛恨

列強に國際輿論としては一異議を教へず、在日諸國人組織の「救護」を受けたと見えるたゞ「國同族」した佐賀や、日本國への日本人の売物ツアー。

兵どもを飽(こ)したの頃、大將、自來水廠、
自主権、朝鮮人擁護者、兵に反対、そして暴動の期
会合の際、"マリリン"が

の者があきまといふこと、北統一の實現。朝鮮國憲を議した一行に対し、張閣員は、単に強制連行に対する對策、保護要求のみならず、朝鮮人との交渉、

[illegible]

紅雲寮開張直後の二十九日、船が沈んだ。紅雲寮の全館、金庫などが所蔵する主権を喪失して、たゞ「アリア」

陸奥地方では高田正太郎 存者・遠慮団体の関係者ら
のうたーオキナワから
村長ほか村議会議員、議員
が東京地裁に日本政府を相
控へての訴状を提出も、平

「この『義経』は、時代考証も手をつけて、監製側用なり、観衆の注目を集めることを目的とした、富田喜三郎の『義経』の模倣作である。中々の悪作である。」「

人が、この教団後には初めて、其の眞價の問題も日本に於てなすべきこと、感服深に語つてゐた。

同教団で文芸会
李さんと金さんの二人は、基督教同僚、慰安所が置かれて「軍夫」らが処刑された阿蘇島で、村民と交り、ものでないことは推察でき

歴史を導いた。そこで最終ア説（阿婆でも般若經を説きたらいい）文化を造年きたらいい」という海が村民側から上がったという。 註国・北朝鮮間の波瀾たことは、今般書機の大倉

超え平和誓う
やされない民族の痛恨

[illegible]

野黨が閣内閣外の二十九日、金さんらが所属する生省・連立団体の関係者から「金さん、お久しぶりです。もう一度、お話を聞きたい」という電話があった。金さんは「もう一度、お話を聞きたい」という電話があった。金さんは「もう一度、お話を聞きたい」という電話があった。

手として強制買収なら経済時
中の損害賠償を求める訴訟
があった。



劇場版のクライマックスで「アリラン」を踊る夢列者ら
— 怪盗団最前線 —

韓國側の裁判者には、住
 民の「無罪自決」に激怒さ
 れる知識階級の怒鳴る場面に
 初めて触れた所でもあっ
 た。四十五年ぶりに慶良間
 (田原あや記章)

(因填あや記号)

参議院国会会議録

国会において「従軍慰安婦」問題が追求されるようになったのは、1990年6月6日、社会党本岡昭次議員が強制連行に関連して質問したことが発端である。その後、1990年12月18日（清水澄子議員）及び1991年4月1日（本岡昭次議員）にも質疑されているが日本政府の不誠実な対応にはただただ呆れるばかりである。

以下にその会議録を示す。

◆第百十八回国会 参議院予算委員会会議録第十九号より抜粋
-1990年6月6日(水)-

○本岡昭次君 それから、強制連行の中に従軍慰安婦という形で連行されたという事実もあるんですが、そのとおりですか。

○政府委員（清水傳雄君） 先ほどお答え申し上げましたように、徴用の対象業務は国家総動員法に基づきます総動員業務でございます。法律上各号列記をされております業務と今のお尋ねの従軍慰安婦の業務とはこれは関係がないように私どもとして考えられますし、また、古い人のお話をお聞きいたしましたし、そうした総動員法に基づく業務としてはそういうことは行っていないかった、このように聞いております。

○本岡昭次君 先ほど言いましたように、海軍作業愛国団とか南方派遣報国団とか従軍慰安婦とかいう、こういうやみの中に隠れて暮らされようとしている事実もあるんですよ。これはぜひとも調査の中で明らかにしていただきたい。できませんね、これはやろうとすれば。

○政府委員（清水傳雄君） 従軍慰安婦なるものにつきまして、古い人の話等も総合して聞きますと、やはり民間の業者がそうした方々を軍とともに連れて歩いているとか、そういうふうな状況のようでございます。こうした実態について私どもとして調査して結果を出すことは、正直に申しましてできかねると思っております。

(つづく)

-1990年12月18日(火)-

○清水澄子君 次に、日韓、日朝ともに日本の過去の歴史の清算にかかわる問題が非常に大きくクローズアップされてきていると思います。この問題は日本がみずから解決しなければならぬ道義上の問題であると思いますし、そして重要な政治課題だと思えますが、きょうは余り時間がありませんので、内容に立ち入った質問は関係や私自身も次回に譲りたいと思いますが、当面する二、三のことをお尋ねしたいと思います。

実は、六月六日の参議院の予算委員会と同僚議員の本岡議員が朝鮮人の強制連行の調査に関連しまして従軍慰安婦の問題をただしたのに対しまして、労働省清水職安局長が政府答弁として、従軍慰安婦は軍、国家と関係なく民間の業者が勝手に連れてきたものというふうな趣旨の回答をなされておりますけれども、これは大臣お答えください。政府の認識にこのことは変わりありませんか。私はそこだけ確認させていただきたいわけですね。

○説明員(戸利和重) お答え申し上げます。

朝鮮人の従軍慰安婦問題につきましては、これにつきましてその後労働省でも調査をいたしてみたいわけですが、実は労働省関係では資料が残っておりません。それから、当時厚生省の労働局でありますとか国民動労動員署でありますとか、そういったところに勤務しておられた方から事情を伺ったわけですが、すけれども、これも当時そういった役所関係では朝鮮人の方の従軍慰安婦については関与していなかったというふうなことでございまして、労働省として朝鮮人の方の従軍慰安婦についての経緯等全く状況がつかめなかったというところでござい

す。

ただ、先ほど申し上げましたように、厚生省関係ではやっていなかったというところは……

○清水澄子君 そういふことは聞いていません。私の質問にだけ答えてください。国と軍は関係してなかったのか、いたのかというところだけでいい。なかったというお答えでしたから、それをもう一度確認しておきたいんです。

○説明員(戸利和重) 少なくとも私も調べた範囲では、先ほど申し上げましたように、厚生省関係は関与してなかった、それ以上はちょっと調べられなかったというところでございます。調べたけれどもわからなかったというところでござい

○清水澄子君 それでは、前の答弁がそのまま政府の見解として残っていると受けとめてよろしいですね。大臣、よろしいですか、そういうふうなそのままだっていいんです。

○国務大臣(中山太郎) 政府といたしましては、労働省の国会での答弁を尊重したいと思っております。

○清水澄子君 では、従軍慰安婦という、強制連行の中で女子挺身隊として強制連行された朝鮮の女性たちの問題は国家も関与していなかったという、それをそのままお認めになるわけですね。

○説明員(戸利和重) それにつきましては先ほど申し上げたとおりでございまして、当時私どもの局長がお答え申し上げた後の状況でございまして、何度も同じことをお答えして恐縮なんですけれども、私もそこまで調べ切れなかった、少なくとも厚生省関係それから国民動労動員署関係

は関与していなかったと。それ以上のことになりませんとちょっと確認のしようもなかったということとで、調査ができなかったということです。

○清水澄子君 じゃ、またそのことはいざ追って関係を明らかにする質問をいたします。

その前に、韓国の女性団体や遺族の間ではこの政府答弁が問題になっております。そして、十月十七日には総理初め各大臣に公開書簡が送られて

いると思うのですが、今手紙は述べませんが、やはりその向こうの内容は、まずこの事実を認めないといふことです。そして、自分たちに公式に謝罪をなさい、そして二度とこういうことが起きないように歴史教育の中で真実を伝えてください、こういうのもっともなことが要求をされておるわけですね。このことに対して十一月末までに返答が求められていると思うのですが、私はきょうの質問に当たりまして各省どのように扱っていらっしゃるか調べていたみたいと申し上げましたけれども、どなたか代表してこの取り扱いについて御返答ください。

○政府委員(谷野作太郎) 私どもも直接先生からいただいたようなお話を私どもの担当の課長が伺ったことがございます。そこで、これはただいま労働省からも御説明がありましたように、すぐれて当時の国内問題でございまして、私どもはそういうような先生からの御要望につきまして、労働省も含めて国内の関係省庁にその御要望の点を外務省としては伝達いたしました次第でござい

○清水澄子君 回答をなさいますか。やっぱりこの問題は誠意を持って対応されるようきょうは責任を持ってください。お願いいたします。

-1991年4月1日(月)-

○本岡昭次君 はい、よくわかりました。また改めて別の機会にやります。きょうはほかに重要な問題を持ってまいりますので。

それでは次に、昨年六月六日の当委員会質問しました強制連行の問題に入ります。その際に政府として調査を約束されたいろんな事項があるんですが、その後、調査の結果はどういうことになりましたか。

○政府委員(若林之雄君) お答え申し上げます。

労働省としては、労働本省、都道府県、公共職業安定所につきまして、関係する部署、倉庫、図書館等、できる限り広範に調査をいたしました。また、金市区町村に対しまして調査依頼をいたしました。さらに、当時の事情に詳しい職業安定行政関係者からヒアリングを行いました。さらに、いわゆる朝鮮人徴用者等を受け入れていた可能性のあります事業所約八百につきまして照会をいたしました。そのほか、情報を把握した場合のその情報の調査というようにことも誠意を持ってできる限りの調査をいたしたところでございます。

その結果、昨年八月七日までに約八万人の名簿の存在を確認いたしました。その目録を韓国政府に提出をいたしました。名簿の目録を韓国政府に提出しました後、各方面からの新たな名簿が存在するとの情報がありましたので、関係省庁が連絡をいたしまして調査をいたしました結果、八月七日時点で未整理でございましたもの及びその後確認されましたものを含めまして、新たに約一万人分の名簿の存在を確認いたしました。

現時点までいわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿約九万人の分を存在を確認いたしましたわけでござ

います。そのうち韓国政府への提出について、保有者の了解が得られましたものの写しを本年三月五日外務省を通じて韓国政府に提出したところでございます。

○本岡昭次君 今のは強制連行の実態だけでしょう。

○政府委員(若林之雄君) 昨年六月にお尋ねの件は、海軍作業要員、南方派遣要員というのがあるが、これはどういうことかというお尋ねでございました。これにつきましては、国立国会図書館の索引を引くなどして調査をいたしました。その手がかりを得ることはできませんでした。

それから、朝鮮人従軍慰安婦についての調査というところでございました。これにつきましては、私も、当時の厚生省勤労局に勤務をしておりますが、国民動員労働員者に勤務をしておりますが、当時厚生省勤労局も国民動員労働員者も朝鮮人従軍慰安婦につきましては全く関与していません。ということでございます。

したがって、労働省といたしましては、ただいまの海軍作業要員、南方派遣要員を含めまして、朝鮮人従軍慰安婦について調査を行うべく努力をいたしました。その経緯等全く状況はつかぬ手がかりがない状態でございまして、御理解を賜りたいと存じます。

○本岡昭次君 特高月報の存在はどうでしたか。

○政府委員(井上孝彦君) お答えいたします。

特高月報につきましては、昨年お話をいただいた以来警察庁といたしましていろいろ調査を行ってまいりました。しかしながら、警察庁には特高月報及びこれに関連する資料は一切保管されてお

りません。これはやはり、御案内のとおり戦後内務省が解体され、それから警察制度が根本的に改革されました。その際に内務省から新しい警察に資料等の引き継ぎが一切なかったことによるものと思われま

す。なお、念のため国会図書館におきまして調べてみましたところ、特高月報の複製版なるものが存在していることは確認をいたしております。しかしながら、その内容の記述につきまして、私どもの方でのような資料に基づいてそのようなデータが使われておるかということをつまびらかにするすべはないと、こういう事情でございますので御理解を賜りたいと思います。

○本岡昭次君 これは特高月報複製版です。これは複製版と書いてあるけれども、特高月報そのものであるのかないのかわからずと確認してください。ここに特高月報とあって、内務省警察局保安課ということで極秘と赤で書いて、この中に朝鮮人の強制連行問題が全部ずっと人数によって記述してあるんです。だから、これが資料として有効性を持つのかどうかということなんです。

○政府委員(井上孝彦君) ただいま申し上げましたとおり、この特高月報、私どもの確認をいたしておりますのも複製版としての特高月報と、こういうことでございます。したがって、それがどのような事情でつくられたのかということもつまびらかにできませんので、恐らく内務省の警察局時代に作成されたものと推定することはできますが、現在の警察庁の立場でこれがそのもの自身であるというふうにお答えするのはいささか責任ある答弁にはならないのではないかと、かように考えております。

○本岡昭次君 いや、これが特高月報の複製版ということは、原本があるから複製ができておるわけですよ。確認でへんとおっしゃるのですか、これ、事実でないかもしれないとおっしゃるのか、その点を聞いておるんです。

○政府委員(井上孝彦君) ただいまお答えいたしましたとおり、恐らく内務省警保局時代につくられたものであろうというふうに推定はできますけれども、私ども、原本というものも知りませんし、またその複製版がつくられたものもものごとくいうものであるかということも確認をできない状況でありますので、御理解を賜りたいと思います。

(中 路)

○本岡昭次君 これは大臣の責任で、これがそうであるかどうか、原本がどこにあるのかという問題ですね。責任を持って確認をしてくださいと頼んでおるんじゃないですか。今やれと言っていない。捜査をしない。

○国務大臣(吹田悦彦) 国家公安委員長として御指名があったこととしてお答えいたしますが、ただいま井上官房長がお答えいたしておりますように、原本がないということですから、ないものはないわけですから、これは今幾ら追及されましても私の方でそれはどうにもなりません、構うましてよく関係省庁の担当者と協議はします。協議はしますけれども、ないということをお席で言っているわけでありまして、それを私が大臣であるからといって、それ以上の答弁をすることはできない。

○本岡昭次君 あればどうしますが、あれば、
○国務大臣(吹田悦彦) あれば結構なことであり

○政府委員(井上孝彦君) 何度もお答えいたしてはいるとおりであります。原本の所在というものを私どもは確認をいたしておりませんし、現段階ではいたしかねる状況にあると、こういうふうにお答えを申し上げます。

○委員長(平井卓志君) 速記をとめて。

(速記中止)

○委員長(平井卓志君) 速記を起こして。

(中 路)

○本岡昭次君 国立公文書館というところを調査されましたか。

(中 路)

○政府委員(井上孝彦君) 原本の所在の確認と申しまして、私どもは内務省時代の資料を一切引き継いでおりませんので確認のしようがない、こ

う申し上げているわけでありまして、失礼いたしました。国立公文書館につきまして調査はいたしております。

○本岡昭次君 そこに原本があると書かれているんです。政府の責任で確認をしてください。

○政府委員(井上孝彦君) 所在の確認はやってみるつもりであります。

○委員長(平井卓志君) 井上官房長、いま一度御答弁願います。

○政府委員(井上孝彦君) 所在につきまして調査をしてみます。

○本岡昭次君 大臣からもう少し明確な指示をしてください。

○国務大臣(吹田悦彦) 御趣旨に沿いまして、内部によく指示をいたします。

○本岡昭次君 それでは、総理に伺いますが、昨年の十月十七日ソウルの日本大使館に、韓国教会女性連合会、韓国女性団体連合会など三十九団体の代表が訪れ、従軍慰安婦問題に関する海部総理あての公開書簡を手交されているが、これをこらんになられましたか。

○国務大臣(海部俊樹君) 見ました。

○本岡昭次君 見てどう思われましたか。

○国務大臣(海部俊樹君) この問題にはいろいろなことが書いてございまして、それらの問題について私は、どのようなことであつたのか、できるだけ調べて内容を知りたいと思つたところであります。

○本岡昭次君 返事をさせていただきます。

○国務大臣(海部俊樹君) このことにつきまして、まだ今御返事を差し上げるような具体的な状況が把握されておられないので、まだ差し上げておりません。

○本岡昭次君 海部総理に対する要請はどういう要請になっておりますか。六項目あると思いますが、それをひとつ読んでいただきたいと思います。

○政府委員(谷野作太郎君) 事実関係でございまして、私から御答弁申し上げます。

お話しのように六項目ございまして、読み上げさせていただきます。

日本政府に対する要求ということでございまして、第一点は、日本政府は朝鮮人女性たちを従軍慰安婦として強制連行した事実を認めること、第二点は、そのことについて公式に謝罪すること、第三点は、実行、野蠻な行為でございしますが、のすべてをみずから明らかにすること、第四点は、犠牲になつた方々のために慰霊碑を建てること、第

-1991年4月1日(月)-

五点は、生存者や遺族の方々に補償をすること。そして最後に第六点として、このような過ちを再び繰り返さないためにも日本における歴史教育の中でこの事実を語り続けてほしいという六項目の要求でございます。

○本岡昭次君 今の六項目について、政府は早急に返事を行うべきだと私は思うんですが、どうですか。

○政府委員(谷野作太郎君) 本件書簡の主題でございます。従軍慰安婦の件につきましては、先ほど労働省からお答えがございましたように、御調査になりましたけれども手がかりになる資料がなかったということでございます。したがって、そういう前提に立ちますと、なかなか具体的な、まして御満足いただけるような御回答はできないわけでございますけれども、例えばその他の歴史教育等の問題も書いてございますので、確かにいただいた書簡につきまして御返事しないまま打ち過ぎるのもどうかと思いますので、とりあえずは、例えば私どものソウルの大使館から現状について先方の関係の団体に御説明するような措置はとりたいと思います。

○本岡昭次君 私も昨年従軍慰安婦問題を質問しました経緯もありまして、その後いろんな調査もしてまいりました。そこで、私の手元に沖縄送還朝鮮人名簿、約千六百名、実際は千五百八十四名の名簿が入手できました。これは沖縄米軍慰安名収容所に収容された朝鮮人の名簿の写しであります。これはGHQの中から資料として日本に送り返されたものの中の一部であります。そして、連合国軍最高司令官総司令部記録の写しということでもあります。

ところが、この名簿の千五百八十四名の名前を一つ一つずつと丹念に調べておられますと、朝鮮女性というふうに分かるものが五十一名、それから朝鮮女性であると考えられる四十七名がこの中から発見されたのであります。これまで強制連行の名簿というのはいくつか発見されましたが、女性が含まれているというようなことはほとんどないわけでありました。

そこで、沖縄の捕虜収容所に朝鮮人の方が収容された、そこに従軍慰安婦がいたというふうな関係の書籍が幾つも出ていたものであります。私はそうしたものを裏づける名簿ではないかというふうに思っております。そういう意味で、ここに書かれている女性は、従軍慰安婦、女子挺身隊ということとで徴用された人たちが戦争の終わった後捕虜収容所ということで、非軍事員ということとでこの名簿に登録され、そして韓国へ送り返された、こういう事態ではないか、このように思います。この事実確認と、この調査結果を私は出していただきたいと思うんですが、いかがですか。

○政府委員(若林之矩君) お答え申し上げます。ただいま先生御指摘の国立国会図書館のGHQの返還文書でございますが、マイクロフィッシュ三十万枚に及ぶという膨大な資料というふうに関しておられます。その中に沖縄送還朝鮮人名簿というものがあろうとお話でございます。これは一千五百八十四名分の汽船乗船員名簿で、名前だけがずつと掲載されているというふうに関しておられます。

この資料につきましては、保有者が国会の図書館でございますので、労働省といったしましては、いわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿に該当する

かどうかにつきましては調査確認をお願いするよう依頼をしたいと思います。そして、私どももいたしまして、この御指摘の資料がいわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿に該当するかどうかにつきましては、国立国会図書館とよく連携をとりながら調査したいと考えております。

○本岡昭次君 韓国の方にもお願いしまして、これは共同で調査すれば事実がもっとはっきりするのではないかと考えているんですが、いかがですか。

○政府委員(若林之矩君) 今回の徴用者等の名簿につきましては、韓国政府から私どもの方に協力の要請があったものでございますので、あくまでも私どもとしてできる限りのものをまとめまして、先方に差し上げるということでございます。私どもとして全力を挙げて調査をしたいというふうに考えております。

○本岡昭次君 今私が持っておりますこの千五百八十四名ですが、この名簿は今入手されておりますか。

○政府委員(若林之矩君) お話は伺っておりますけれども、まだ私も入手をいたしておりません。国会図書館の方にお話をいたしまして、今後そういったような確認の調査の御依頼をしたいと思っております。

○本岡昭次君 私が今改めますから、国会図書館に依頼するんじやなくて、日本の政府の手によってこれは明らかにしたいだきたいと思っております。やっていただけますか。

○政府委員(若林之矩君) もともと先生から資料をいただきますれば私どもとして調査いたしますが、しかしやはり国会図書館の保有しておられる資料でございます。これまでも関係省庁等の保

-1991年4月1日(月)-

有しておられる資料につきましてはそれぞれのこと
 ところで確認をいたしまして、私ども連携協力し
 て調査確認を行うということにいたしております
 ので、これにつきましてそのような段取りを踏
 んでまいりたいというふうに考えております。

○本岡昭次君 従軍慰安婦の存在は、民間の業者
 がそうした慰安所に朝鮮人の方を連れていったと
 いうことは聞いているが、政府の責任でというふ
 うなことはない、こうおっしゃっているんですが、
 それでは女子挺身隊というものの存在はあったん
 ですか。

○政府委員(若林之矩君) お答え申し上げます。
 女子挺身隊でございますが、女子挺身隊労働令と
 いうのが、国家総動員法に基づきまして昭和十九
 年の八月付で勅令第五百十九号によりまして定め
 られております。これによりまして、挺身隊労働を
 受けようとする者は地方長官に対して請求または
 申請をする。地方長官はこの請求または申請を受
 け、必要があると認めるときは、市町村長、団体の
 長、学校長に対し女子挺身隊員の選抜を命令する。
 地方長官は、命令を受けた市町村長等が選抜した
 者の中から隊員を決定し、挺身隊労働書を交付す
 る等々の内容でございます。そして、労働令書の
 交付を受けた隊員は挺身隊労働により総動員業務を
 行うというふうになされております。

○本岡昭次君 その女子挺身隊に朝鮮人女子挺身
 隊というふうなものがありましたか。

○政府委員(若林之矩君) 私ども、そのような名
 称は聞いておりません。

○本岡昭次君 今、韓国の梨花女子大学の教諭で
 あります尹貞玉さんという方がこういう一文を提
 されております。現在生きておられますが、

一九四四年二月、梨花女子専門学校一年の
 時、南北朝鮮半島全土の各地で、未婚の若い女
 性を手前次第に挺身隊に送り出す惨状らしい
 出来事が繰り広げられた。このことで、多くの
 学生が結婚を急ぎ、退学し始めると、慌てた学
 校当局は「学校が責任をもって言う。あなた方
 には絶対そのようなことはない」と公言した。
 しかし、しばらく後、私たちは国民総動員令
 を応じるという書式に捺印しなければならな
 かった。

私は父母の言葉に従い学校を退学し、挺身隊
 を免れたが、その頃、私と同世代の多くの女た
 ちが、日帝によって送り出されていったのだ。
 こういう文書もあるんですが、本面になかったん
 ですか。

○政府委員(若林之矩君) お答え申し上げます。
 私どももいたしましては、朝鮮人従軍慰安婦問
 題という御指摘でございましたので調査をいたし
 ましたが、当時、厚生省の勤務局あるいは国民動
 員労働局というのがございます。こういうところ
 が勤務業務を担当していたわけでございまして
 が、当時そこに勤務をしておりました者から事情
 を聴取いたしました結果、厚生省勤務局も国民動
 員労働局も朝鮮人従軍慰安婦といった問題には全
 く関係していなかったということでございます。
 私どもそれ以上の状況を把握できないという
 ことでございます。

○本岡昭次君 関係していなかったということと、
 その実態があったのかどうかというのは別問題な
 んですよ。私は女子挺身隊というものの実態は何
 であったのかということを変更して調査を要求しま
 す。

○政府委員(若林之矩君) ただいま申し上げまし
 たように、繰り返しのようになって恐縮ございませ
 けれども、当時の勤務局あるいは国民動員労働局、
 こういうところが勤務業務を行っておったわけで
 ございまして、こういうところに勤務をしており
 ました者が全く朝鮮人従軍慰安婦問題については
 関係していなかったということでございます。
 このような関係の実態をそういうルートでなくて
 調べるということはできないというのが現状でござ
 います。

私どももいたしましては、微用の名簿につきま
 してはこれまでも誠意を持って取り組んでまいり
 まして、今後ともこの調査、確認に努力をしてま
 いりたいというふうに考えております。

○本岡昭次君 納得できませんね。

それでは、先ほどの千五百八十何名の名簿の中
 に女性がいる、その女性には仲間で一体どういう仕
 事についていたんだとあなたは思いますか。

○政府委員(若林之矩君) 私ども、それがどうい
 う実態であるかということとはわかりませんが、先
 ほど申し上げましたように、それが微用者の名簿
 に該当するかどうかという観点から、できる限り
 調査してみたいと思っております。

ただ、先ほど申し上げましたように、いずれに
 いたしましてそれは名前だけがずつと並んでい
 るということのようでございます。大変に難し
 い問題だということには認識いたしております。

○本岡昭次君 政府が関係し軍がかかわって、女
 子挺身隊という名前によって朝鮮の女性を従軍慰
 安婦として強制的に南方の方に運出したというこ
 とは、私は間違いない事実だということに思いま
 す。その裏づけができないので、今あして逃げ

-1991年4月1日(月)-

ているわけでありませうけれども、やがてこの事実が明らかになったときにどうするかということをお考え下さい。海部総理、これはあなたが総理として日韓関係を考えるときに、この問題をどういうふうに対応していったらいいと思われませんか。

○国務大臣(海部俊樹) 昨年の日韓首脳会談でこのテーマも出しました。また私自身の方から盧泰愚大統領に對しても、直接我が国の行為によって過去に犯した罪をいさめたいという苦しみや痛みに対して率直に責任を感じ反省をしていますという過去の歴史に対する認識を申し述べ、過去のわだかまりを越えた日韓新時代をつくるためにそういう認識に立つてくれたことを非常に評価をし感謝する。こういうことで盧泰愚大統領との間の話が決着をし、そのとき、たしか外相会談だったと思いますが、それに関する名簿等の提出を要求されたので、政府としては誠意を持ってできる限りその調査をするということを決断し、それを行っております。

○本岡昭次郎 総理は、カナダ政府の日系カナダ人に対する謝罪と補償、私この手紙を渡しておきました。お読みいただきませんか。その感想を言ってください。

○国務大臣(海部俊樹) 拝見させていただきます。

そして、それによりますと、当時のカナダ政府は、ブリティッシュコロンビア州の日系カナダ人全員を同州から退去せよとか、あるいは財産を没収するとか、あるいはよその強制収容所に収容するなどのいろいろな政策を実施したわけでありましたが、それについて誤りであったということ

議会で表明し、そしていろいろな対応策をとったということが詳しく出ておる手紙でございます。拝見させていただきます。私はそういうことをカナダ政府がされたということに対しては、両国の間のわだかまりを解くことに非常に大きな意味があるのではないかと、このように率直に受けとめております。

○本岡昭次郎 私の身内の中の一人がその文書を入手したわけですが、私は同じように日本と韓国との関係では、人権上の原則というものを侵害して非常に不当なものであったというよりは公式な謝罪、そしてその者に対する一定の補償、そういうものをやらなければ日韓の本當の意味の信頼関係は生まれません、こう思っています。どう思われますか。

○国務大臣(海部俊樹) その問題を含めて、私は過去の我が国の行為によって耐えがたい痛みや苦しみを与えたことを深く反省して、率直にこの認識を述べて、再びこのようなことが起こらないように前向きに対応していかなきゃならぬと、そういうことについては盧泰愚大統領も、そこまで歴史の認識を正しくしてもらったことが大切であって、わだかまりを乗り越えて新時代に向かっている。こういうことで基本的な合意をしたわけでありまして、そして、ただいま日韓三国三世代問題とか、いろいろなテーマに出た問題等がございます。それは誠意を持って今片づけつつあるさなかでありますし、また名簿のことについても、そのようなことについてできる限りの調査を進めさせておるところであります。

○本岡昭次郎 この従軍慰安婦問題はその中の最も重大な問題だということに私は考えております。

日韓二十一世紀委員会の最終報告、これは海部総理のところに出ておると思いますが、この中にも日韓の歴史をめぐる認識ギャップ、本當に私たちが心すべきことがここに書いてございます。やはりその中の一つにこの強制連行の問題、あるいは特にこの従軍慰安婦問題というのは、これは日本国の責任できちっと説明をしていかない限り、いかに海部総理が過去の過ちをと、こうおっしゃっても、私は根柢から信頼関係は生まれません、それほど重要な問題を含んでいる、こう思っているわけでありまして、ひとつ海部総理の方もこの問題に対して大きな問題意識を持って説明に努力をして、各省庁に対して積極的な指導性を発揮していただきたいと思います。いかがでございますか。

○国務大臣(海部俊樹) 御質問の御趣旨等も踏まえ、また、私の方も韓国の大統領との首脳会談でそれらのことについては率直に反省の意を表明しておるわけでありまして、それを乗り越えて未来志向型の関係に移っていくためにも、過去の問題についてはできる限り調査をし、真実を明らかにし、提供すべきものは提供していかなくちゃならぬと思っております。

○本岡昭次郎 次の質問の機会に、私は今この問題の結果の報告を求めることにしたいと思います。

この国の娘たちは、なぜ、日本人に

全斗煥氏の訪日はキーセン観光の全面展開である。

このピラは韓国で全斗煥訪日反対運動の中で配布されることになっていたが、事前に当局に押収（84・8・17）された。当時の東亜日報によると、ソウル中部警察署は民主化青年連合の尹文連氏（崇田大29）を「不法ピラ製作」の容疑で連行したと報道している。尹さんはこのピラ1万枚を製作依頼したものの印刷所の密告によって日の目を見ることのできなかった資料である。

キーセン観光の問題をさかのぼって挺身隊問題から歴史的にひもといている。

1. 韓国女性の体を売って対日貿易 赤字の穴埋めをしようとする売春観光政策を即時中止せよ！
2. 女性の商品化を助長し、享楽消費文化を拡大させる韓日文化交流に強く反対する！
3. 濟州島は日本の地か！ 濟州島を日本人の私娼街にしようとする現政権と財閥のあらゆる企みを即時中断せよ！
4. 全斗煥氏の訪日は日本人の性侵略を全面化する契機となるものだ。これに対し、わが女性たちは全斗煥氏の売国的な日本訪問に反対する！

体を売らねばならないか!! (1984年8月)

民主化運動青年連合女性部

韓国は日本男性の遊郭地帯か?

“ニホンジン チョウセンジン
テンノウヘイカ オナジネ”

これは銃剣の脅かしのもとに連れて行かれた20万の挺身隊の乙女たちが日本兵士の性処理台として身を捧げていまだ生命を維持するためにつぶやかざるを得なかった絶叫であった。

しかし、悪夢のようなその記憶が消される前に私たちのオモニ、オンニを蹂躪してきた日本男性が再び玄海灘を渡ってこの地にどっと押し寄せてきた。“キーセンのサービス満点、男性天国”—ある旅行社のうずうずするようなキャッチフレーズのように風色を求めて闊歩する日本人観光客の男性はいまや年間60万に達し、彼らの落とすはした金で体を売る韓国人女性が10万、彼女らを中間搾取して生きる抱え主、料亭、旅行業者などの蛭(ひる)が数十万人になるという。

どうしてこのような恥ずべき現実が一段と盛んになるのか?



“88オリンピック 観光大国”のウラで日毎に繁栄している

“娼婦の巢屈コリア”の実態は暴露されねばならない

昨年、華麗に開催されたASTA(米州旅行者協会)総会では一言半句も取り上げられなかったが、観光振興の看板の下でキーセン観光は現地妻、

コールガール、芸能人接待婦、さらには国際結婚斡旋業など多様な形で深化されている。観光産業振興の美名の下に同産業への100%外国人直接投資が積極的に奨励され、ソウルのいたる所に日本人ホテル、ショッピングセンター、料亭、キャバレー、飲食店などが日毎に繁栄の一路を歩んでいる。日本人と腕を組み、ホテルから出てくる若い韓国女性の姿もソウルの街にはもうありふれた光景である。そればかりではない。最近、日本の都市ではチョ・ヨンピルブームとあわせ、芸能公演という名目で「キーセン輸出」が盛んになり、東京はもちろんのこと、大阪だけでも韓国版輸出料亭が50余りになる。性に飢えた日本人男性が続々と韓国に押し寄せるだけでは足りず、いまや、日本にまで出かけて接待婦をしなければならないのか？

济州島を日本の私娼街にすることに反対する

‘88観光大国の開発重要戦略のひとつが济州島を“免税地域”“ノービザ地域”「国際享楽観光地に開発することである。すでに何回か報道されたように济州島の80%以上が国内独占財閥と日本人の掌中にあり、現在、建設中であるホテル・料亭・ゴルフ場などにいたるまで日本資本が介入しない所はないという。また、大規模料亭を建て、全国のキーセンの総本山にするというから、いままさに「济州島は日本人の色と酒の街」に転落せんばかりである。

前掲 <詩「天の川」>は
〔このビラに掲載されていたものである。〕

韓国女性が日本人の性の弄落物となって行く実情を隠ぺいした

“韓・日友好”とは虚偽であり、

全斗煥氏の訪日は性侵略を加速化させるのみである

輸出工団では日本へのダンピング輸出のために100万人以上の女工たちが飢餓賃金と徹夜労働で苦しめられている。そのうえに韓国と日本のいたる所で貧しい韓国女性は日本人男性のはした金を求めて酒をつぎ、体を売る。精神的に侮辱され、肉体的に酷使される散然たる現実の前で真の韓日友好関係があり得るだろうか。日本人に笑いとこびを売らなければ友好関係が増進されないのか？

結局、日本は私たちにとって何なのか

	日本の本質	日本の対アジア及び韓国侵略	日本の支配方式	韓国女性の苦難
植民地時代	日本帝国主義 =天皇制 ファシズム	大東亜共栄圏 ”天皇はアジアの父母であるので日本人と朝鮮人は兄弟である”	武力的支配—大規模徴兵と73万韓国人の徴兵と費用	挺身隊（20万）”韓国女性は天皇軍隊の補給品”
現在	新軍国主義= 自衛隊増強+ 平和憲法 廃棄	アジアの門経済圏化”韓国は日本防衛に不可欠なので日本の保護が必要である。	経済的支配—借款と直接投資、技術協力による経済的従属	観光キーセン（10万） ”経済建設に寄与する韓国キーセン”

訳責：在日韓国民民主女性会

■「松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会」結成

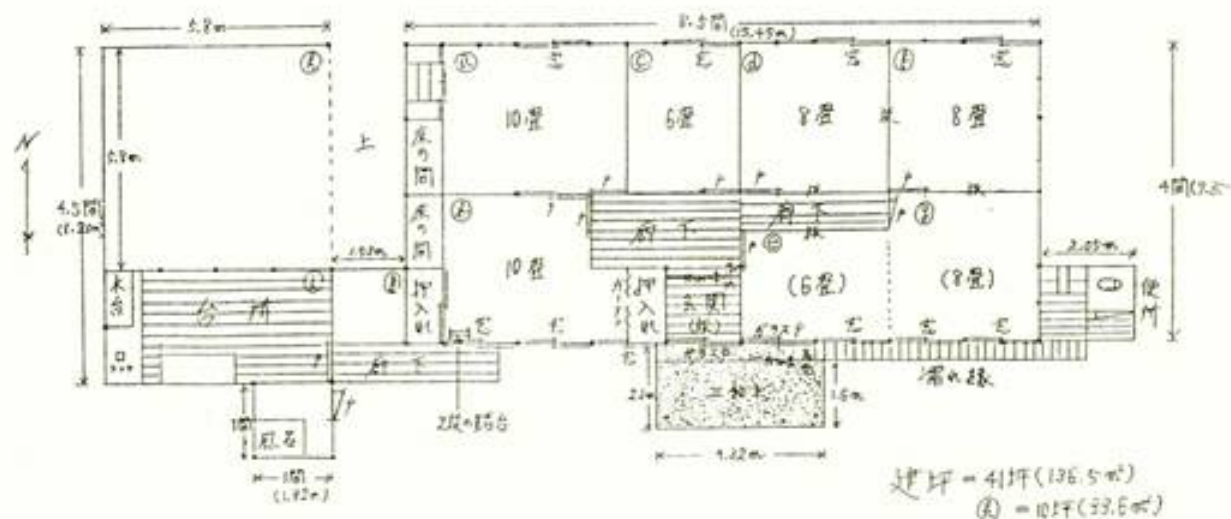
朝鮮人「従軍慰安婦」問題を掘り起こす運動が活発化している中、長野市松代町の松代大本営地下壕の近くに現在も残っている慰安所跡を保存しようと「松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会」が6月、結成することになった。

この慰安所跡は、松代町の民家の敷地内にあるが、道路拡張工事で7月初旬には取り壊される。そこで、「松代大本営を考える会」のメンバーが中心となって、「女性が尊厳を踏みにじられた歴史の証言者である建物を保存することは私たちの責任」という意識のもと、移築・保存運動を呼びかけたもの。在日韓国民主女性会もこの実行委に加わって行くことにした。

朝鮮人「従軍慰安婦」問題に対し、日本政府は関与していないとウソの言明をしてひんしゅくをかっている。過去 朝鮮民族抹殺政策として、『皇軍』の性処理の道具として狩り出された朝鮮人従軍慰安婦の存在の事実を実証する慰安所を残し、保存する意味は大きい。

同会は多くの賛同を呼びかけている。

六工社の女工優待部見取図



1944年11月、地元の警官に「戦業所に借りたい、国家に協力を」と書かれ、貸した民家の養蚕室は慰安所に使われた。この見取図は地元の墨十研究家が作成したもの。

「朝鮮人慰安婦の家」の保存・移築についての緊急呼びかけ

松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会

長野市の松代大本営地下壕の近くに、造営当時（1944. 11～1945. 8）朝鮮人慰安婦の住まわされた家が現存しています。ところが、道路拡張工事のためこの夏にも取り壊す必要が生じ、さらに空気銃で窓ガラスが割られるいたずらが発生したため、保存のための移築が急務になってきました。これはこの建物を移築・保存するための緊急の呼びかけです。

この建物は松代町内の民家の敷地内にあり、本来は蚕室として使われていたものでした。松代大本営の工事が開始されるころ、憲兵の「娯楽施設として借りたい」との申し入れを承諾させられたところ、朝鮮人の女性数人が慰安婦としてここに置かれたということです。「朝鮮人が周囲の女性に乱暴するのを防ぐ」という名目で置かれながら、実際に利用したのは大本営建設を指揮した日本の軍幹部らでした。

建物は7つほどの部屋に区切っており、そのひとつにひとつに女性たちがいました。仕切りもおざなり、板じきにむしろを引いただけの部屋、祖国の料理を作っていたとかまどなど、ここで過ごした女性たちを思い浮べるとき、松代大本営の工事で苦しんだのは直接労働した人々だけでなく、もっともっと広い範囲にわたっていることに気づかされます。

朝鮮半島から強制的に連行された二十歳前後の女性たちが、人間としての尊厳を奪われた生活を強いられていたという事実を伝え、その証言者であるこの建物を保存することは、現在を生きる私たちの責任であると思います。

3月21日には、元梨花女子大学教授で韓国の挺身隊問題対策協議会代表の尹貞玉さんが現地を調査し、「慰安所の建物が当時のままの姿で残っているのは極めてめずらしい。ぜひ保存してほしい。」と評価されたばかりです。

所有者の方は、この建物の意義を理解され譲ってくださる意向です。しかし、道路拡張工事のため、7月初旬までには、現在の場所から撤去しなくてはなりません。移築先は松代大本営との関わりからぜひとも松代町内にすべきだと考えますが、今のところ用地が決まっていません。しかし、移築できる土地が決まるまで解体した建物の資材を保管できることにはなっています。建物の移築が成った暁には、朝鮮人慰安婦や松代大本営についての資料を置き、日本人の加害の事実を確かに伝え、二度とこうした苦しみを与えないことを心に刻む場所にしたいと考えています。

そこで移築・保存のための実行委員会を発足させることになりました。私たちは共に移築・保存の活動に参加して下さる実行委員のメンバーと協力者を求めています。

活動は

- ① 調査・解体・移築に必要な資金（最低4000万円）の調達のための募金活動
- ② 移築用地探しと地権者への打診

が柱となります。

厳しい条件下ではありますが、趣旨を理解され、調査・解体・移築を手懸けて下さる業者の方を緊急に求めています。

募金の呼びかけや諸般の交渉など、一人でも多くの方に動いていただくことで、移築は実現します。実行委員会への参加・協力をいただける方はぜひ御連絡ください。よろしくお願いします。

1991年5月11日

<事務局> 0472-76-4912（黒崎）
 0463-91-0547（前田）

<郵便振替口座> 東京 5-1899
 松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会

＊募金は一口1000円をお願いします。

松代 朝鮮人慰安婦の家保存を

太平洋戦争中、長野市の松代大本営近くに残され、現在もほぼそのままで残る朝鮮人慰安所を水久に保存しようと、「松代・朝鮮人慰安婦の家を保存する実行委員会」がこのほど結成された。大本営工事の研究を進めている、東京葛飾区の新山根月子さんから「松代大本営を考える会」のメンバーが中心となり、六月に結成総会を開く。建物は七月までに移転しなくてはならない状態で、急ぎ募金への協力を呼び掛けている。

「慰安婦の家」は、木造平屋建て約百二十平方メートル、同市松代町の民家の敷地内にある。戦前は倉庫として使われていた。

所有者によると、大本営建設が始まる直前の一九四五年十一月に警備が来て、「工事のため集めた朝鮮人労働者が、付近の女性に悪

「大本営を考える会」の会員ら

実行委を結成

募金呼びかけ

さをしないように慰安所にしていた朝鮮人女性四人と、本人はかりだったという。国策に協力して欲しい世話をする朝鮮人らが住んだ。戦後は空き家となり、その後、民間に引き上げられたが、実際に客として出入りしたのは軍人などだけ。慰安婦として働かされた出入りしたのは軍人などだけ。慰安婦として働かされた出入りしたのは軍人などだけ。



太平洋戦争末期、松代大本営建設にともない、朝鮮人慰安婦が働かされていた建物
＝長野市松代町で

する」と申し出ている。実行委員会は、移転後は朝鮮人慰安婦や、松代大本営に関する資料を置き、戦争用出典としての日本を見つめ直す場所になりたい考え。そのためには最低四千万円の費用がかかる。建物の解体、移築をしてくれる業者もまだ見つかっていない。山根さんは「朝鮮半島から強制連行された女性たちが、人間としての尊厳を奪われた事実を伝えることは私たちの責任。そのために建物を保存したい」と活動への協力を呼び掛けている。問い合わせは、同会の黒崎さん（〇四七二二七六一四九二二）か前田さん（〇四六三一九一〇五四七）まで。

아느냐 내 딸들아
「知ってるの、わが娘たちよ」

유소림 작사
안혜경 작곡



この歌は挺身隊として連行された女性たちの痛みを主題に作られたもので1991年3月8日の「3・8国際婦人デー記念第7回韓国女性大会（韓国女性団体連合主催）」において開会に先立って歌われた。

ユ・ソリム作詞
アン・ヘギョン作曲

1. ※知ってるの、あなたたちは わが娘たちよ
分断されたこの地で、女に生まれた娘たちよ
間島の地、大阪へ、太平洋へ、
母は追われ、連れ去られた
この地の歴史のように、踏みにじられても
十の手のつめ、両肩砕かれても
幼な子手をとって涙こらえ
その日を待ち望んで、生き残った

2. 都会へ、紡績工場へ、夜の街へ
姉は追われ、連れ去られた
それでも死なない野の花になり
両手のこぶし握りしめ、涙を隠し
夜明けの解放、解放のその日
あー 待ち望み、生き残った



[参考図書]

現代の慰安婦たち	臼杵敬子	現代史出版会
赤瓦の家	川田文子	筑摩書房
軍隊慰安婦	金一勉	徳間書店
天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦	金一勉	三一書房
マリヤの賛歌	城田すず子	かにた出版部
正篇・従軍慰安婦、続篇・従軍慰安婦	千田夏光	三一新書
従軍慰安婦・慶子	千田夏光	光文社文庫
漢口慰安所	長沢健一	図書出版
証言記録・従軍慰安婦、看護婦	広田和子	新人物往来社
朝鮮人慰安婦と日本人	吉田清治	新人物往来社
私の戦争犯罪	吉田清治	三一書房
「軍医官の戦場報告意見集」	高崎隆治	不二出版
	編・解説	

在日韓国民民主女性会活動案内

東京

- ・定例会 月1回・日曜日午後
子連れ参加歓迎！託児を兼ね、民族文化にふれる
子ども企画を行っています。
 - ・女性問題学習会も随時開催
 - ・会報「民主女性」隔月発行
- * チャンゴサークル
月4回 土曜日
- 連絡先：〒101 東京都千代田区神田小川町
3-6-8 伸幸ビル5F
☎03-3295-2638



東海

- ・定例会 月1回
「子どもと共に出来ることをやっいてこう」
を目標にウリナラの「昔話」を用いて紙芝居作りを
しています。また、随時学習会や野遊会など盛りだ
くさんの企画を準備しています。
- 連絡先：〒460 名古屋市中区栄1-13-4
大林マンション7F
☎052-221-1661

大阪

- ・定例会 月1回日曜日午後
もちろん託児あり、子連れOK！
 - ・分科会
 - ・女性問題研究会 月1回 土曜日夜
 - ・チャンゴサークル 月2回 土曜日午後
 - ・会報「ボラッピ」毎月1回発行
- 連絡先：〒543 大阪市天王寺区味原町1-1
味原第一ビル202号
☎06-765-3770